第２章　アンケート分析結果

第１節 在宅療養者について

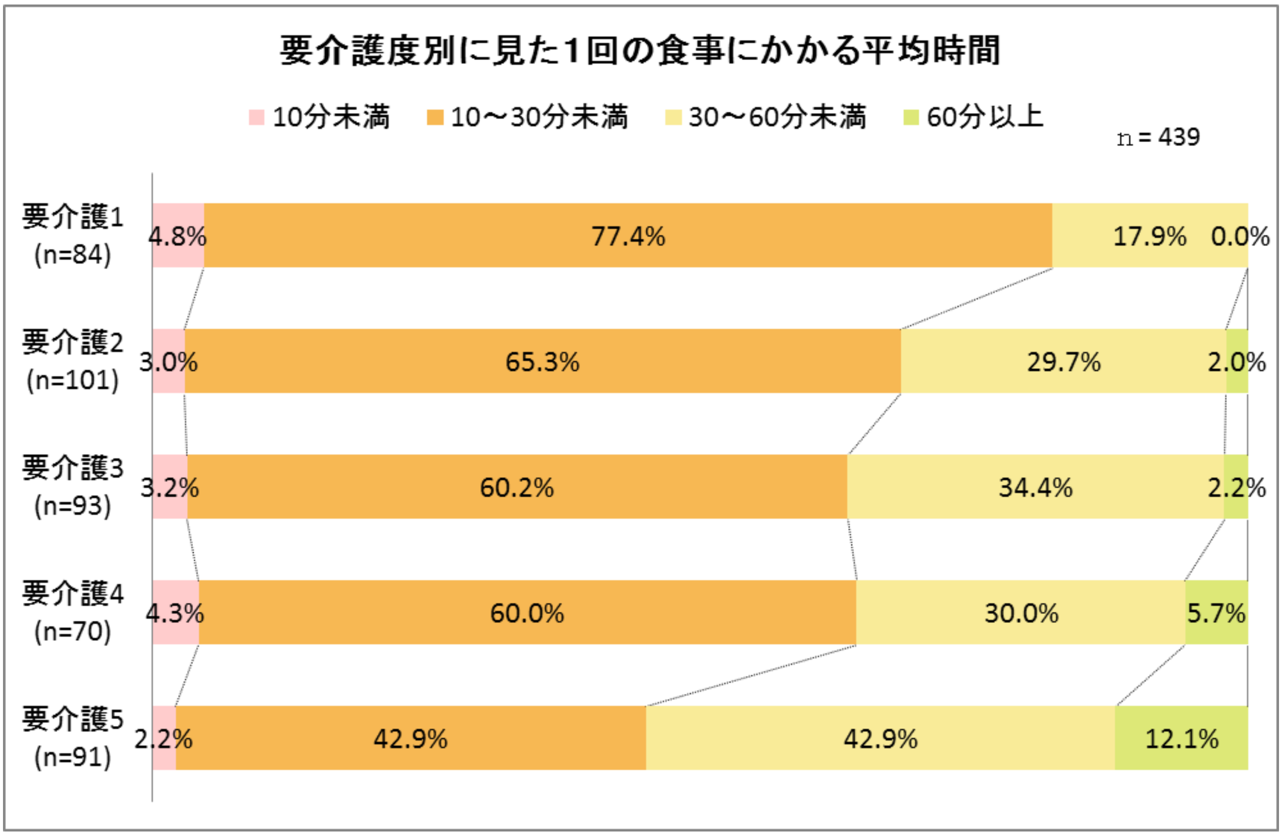
１．在宅療養者の食事状況と摂食・嚥下機能

（１）要介護度による違い

■要介護度別に見た１回の食事にかかる時間

要介護度が高くなるにつれて、１回の食事にかかる時間も長くなる傾向が見られます。

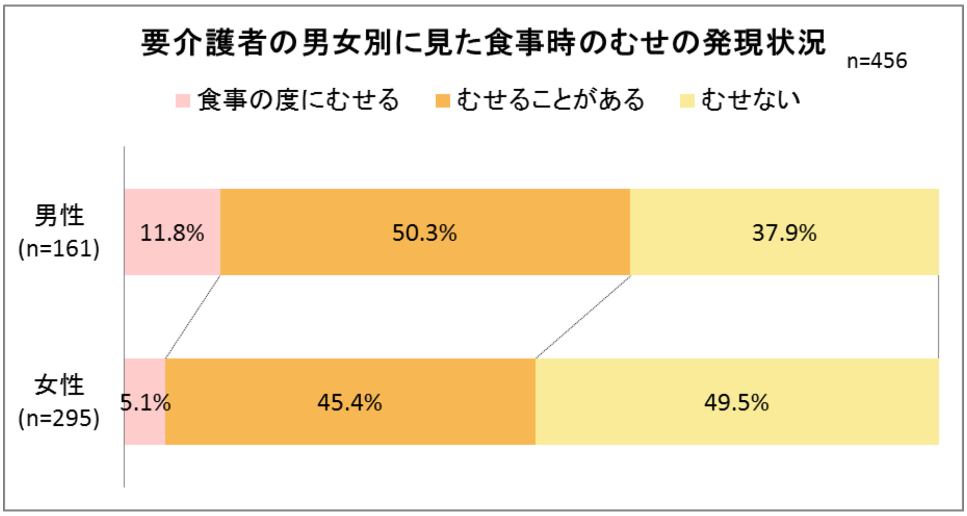
<u>図Ｉ-2-1-1：要介護度別に見た１回の食事にかかる平均時間</u>



（２）要介護者の性別による違い

女性に比べて男性の方が食事中のむせの発現割合が高いという結果でした。特に「食事の度にむせる」と回答した世帯は、女性が 5.1％に対し、男性が 11.8％と倍の値になっています。

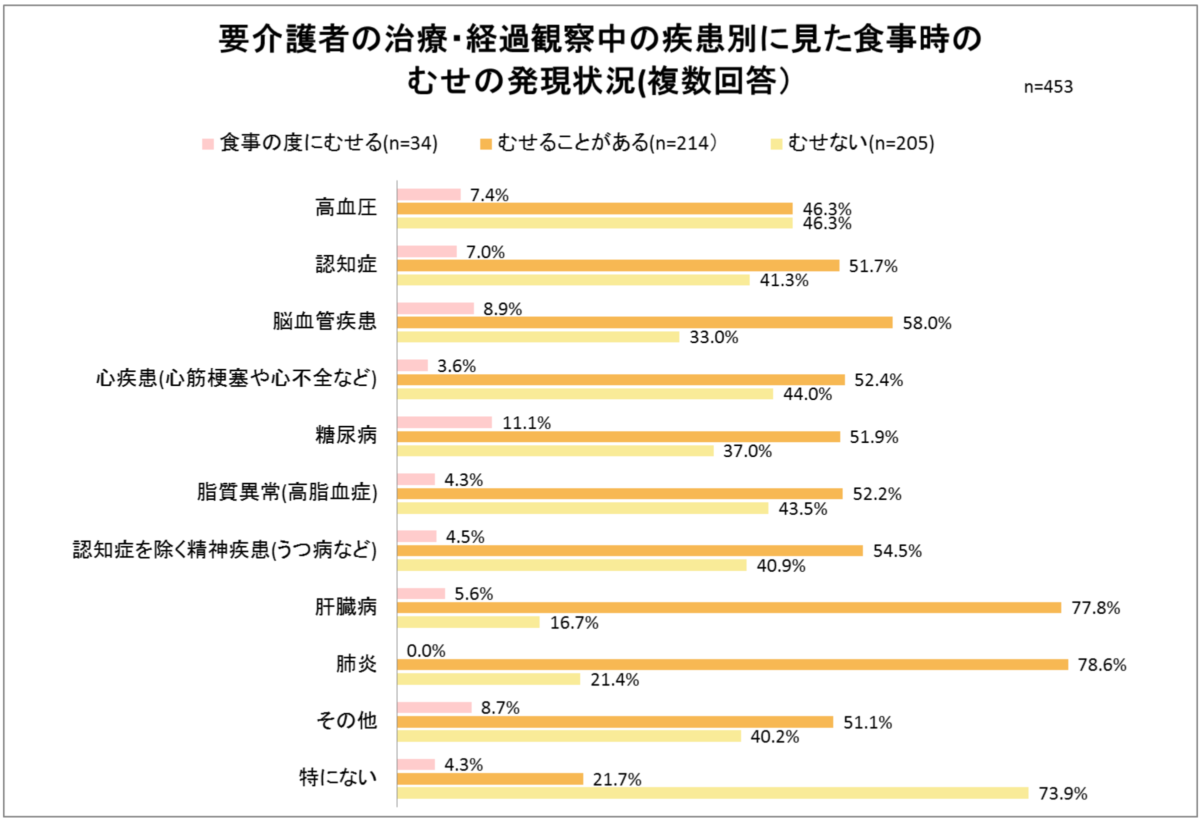
図Ⅰ-2-1-2：要介護者の男女別に見た食事時のむせの発現状況



（３）要介護者の疾患による違い

肝臓病、肺炎、脳血管疾患の順に食事時のむせ発現の頻度が高い傾向が見られました。また、治療・経過観察中の疾患がない方の方が、食事時のむせの発現頻度が低いという結果でした。

図Ⅰ-2-1-3：要介護者の治療・経過観察中の疾患別に見た食事時のむせの発現状況(複数回答)

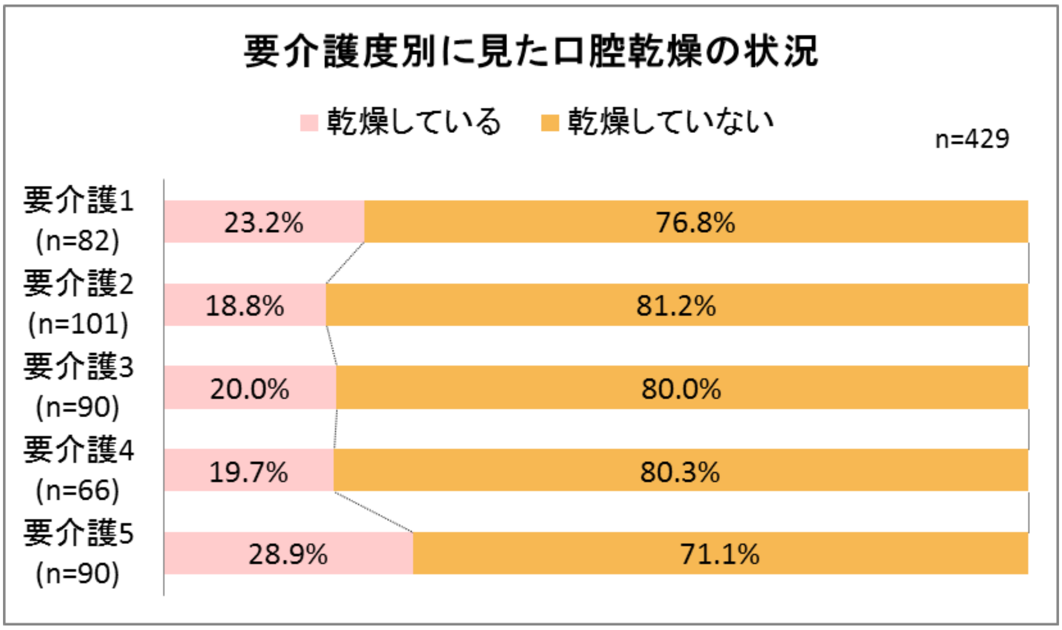


２．在宅療養者の口腔の状態と摂食・嚥下機能

（１）要介護度による違い

要介護度に関わらず約２割の方に口腔乾燥が見られました。

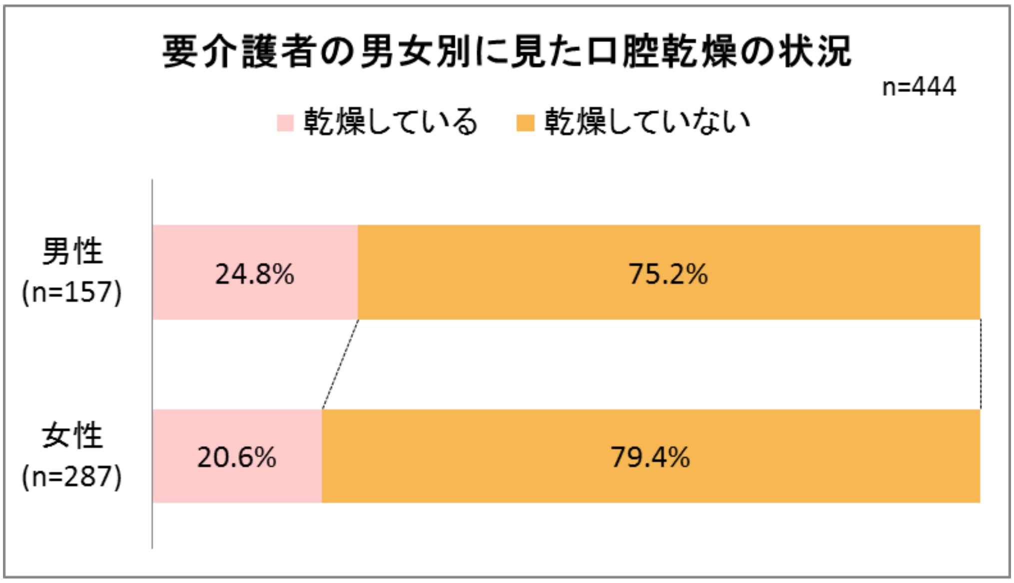
図Ⅰ-2-1-4：要介護度別に見た口腔乾燥の状況



（２）要介護者の性別による違い

女性で口腔が「乾燥している」と回答した世帯は 20.6%に対し、男性は 24.8%で女性に比べ男性の方が、口腔が乾燥している割合が高いという結果でした。

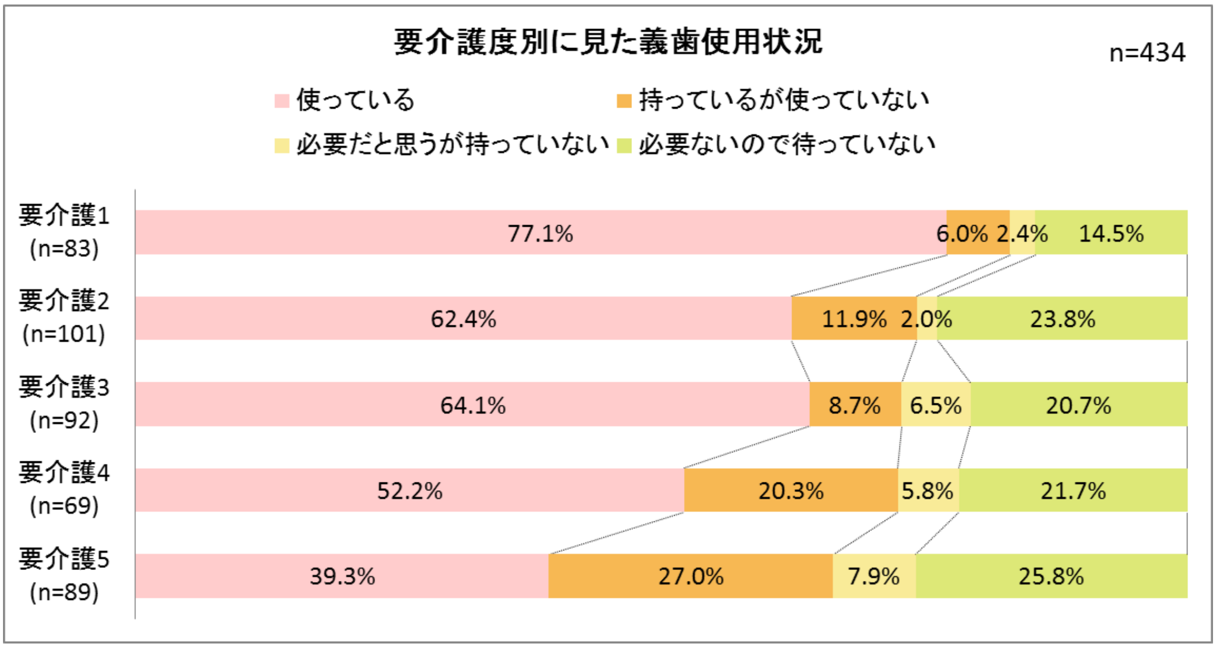
図Ⅰ-2-1-5：要介護者の男女別に見た口腔乾燥の状況



（３）要介護者の義歯の使用による違い

要介護４・５になると義歯の使用が減る傾向にあり、また、「義歯が必要だと思うが持っていない」と回答した方の割合が増加していました。

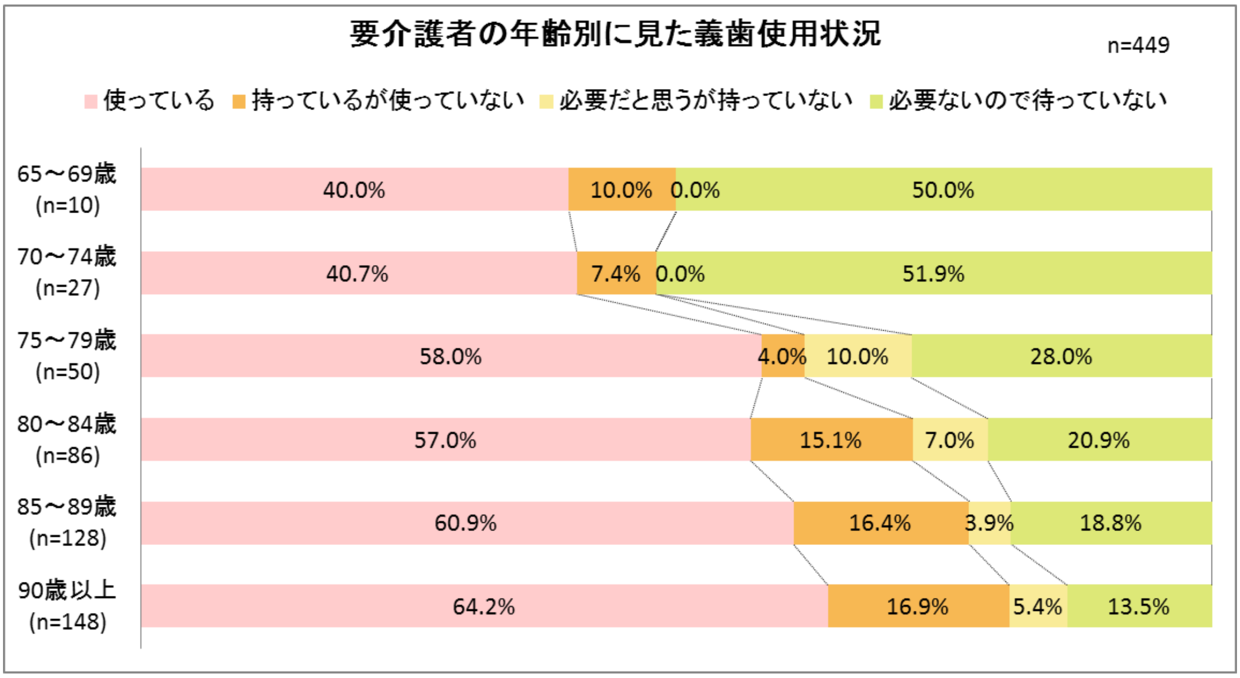
図Ｉ−2-1-6：要介護度別に見た義歯使用状況



（４）要介護者の年齢による違い

要介護者の年齢別に義歯の使用を見てみると､75 歳を超えると義歯の使用率が高くなる傾向が見られました。一方で 80 歳以上になると、年齢が高くなるにつれて、「義歯は持っているが使っていない」と回答する方が増加する傾向が見られました。

図Ｉ−2-1-7：要介護者の年齢別に見た義歯使用状況



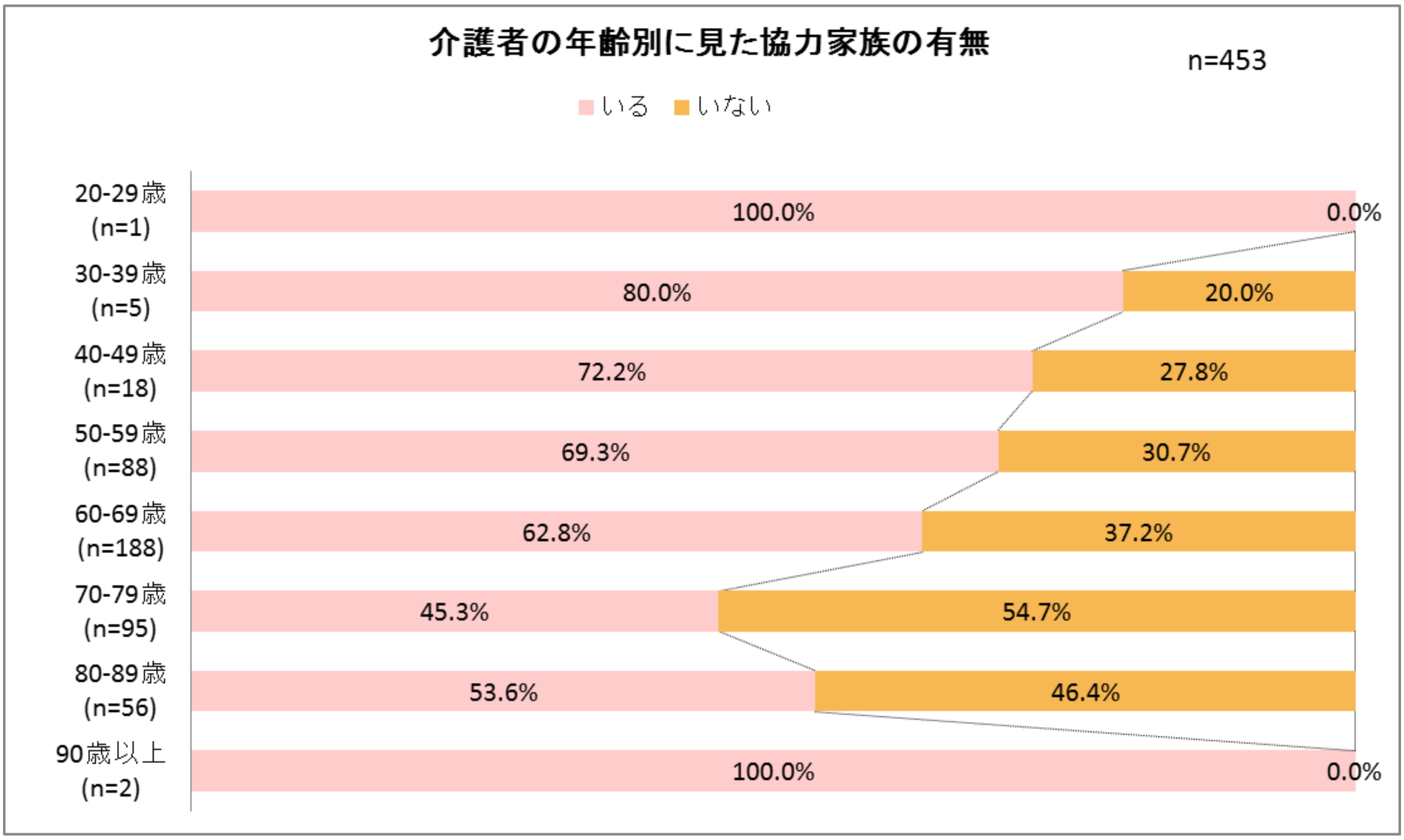
第２節　介護者に関する集計結果

１．食事に関する介護負担

（１）介護者の年齢による違い

介護者の年齢別に見ると、70 代が最も一人で介護をしている割合が高いという結果でした。80 代になると、一人で介護する割合が減少傾向にはありますが、50 代以下と比べると、一人で介護をする割合が高い状況にあります。

図Ｉ-2-2-1：介護者の年齢別に見た協力家族の有無

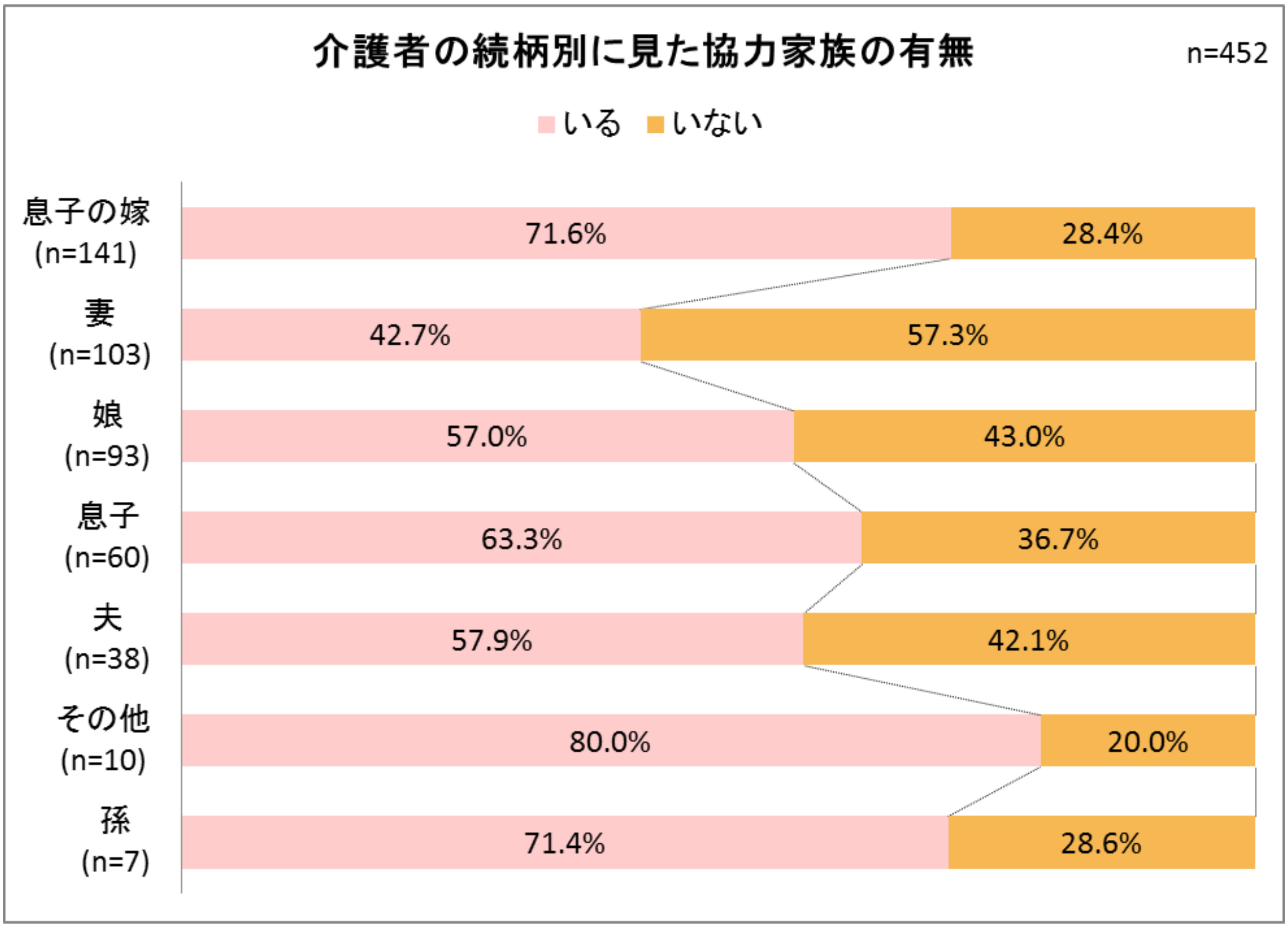


（２）介護者の続柄による違い

介護者の続柄別に見てみると、特に妻が介護者の場合は 57.3%に協力者がおらず、一人で介護をしている状況でした。次いで、娘も 43.0%、夫も 42.1%の方が一人で介護をしているという結果でした。

介護者が息子や息子の嫁の場合は、他の続柄に比べて、一人で介護をする割合は低くなる傾向が見られました。

図Ｉ-2-2-2：介護者の続柄別に見た協力家族の有無



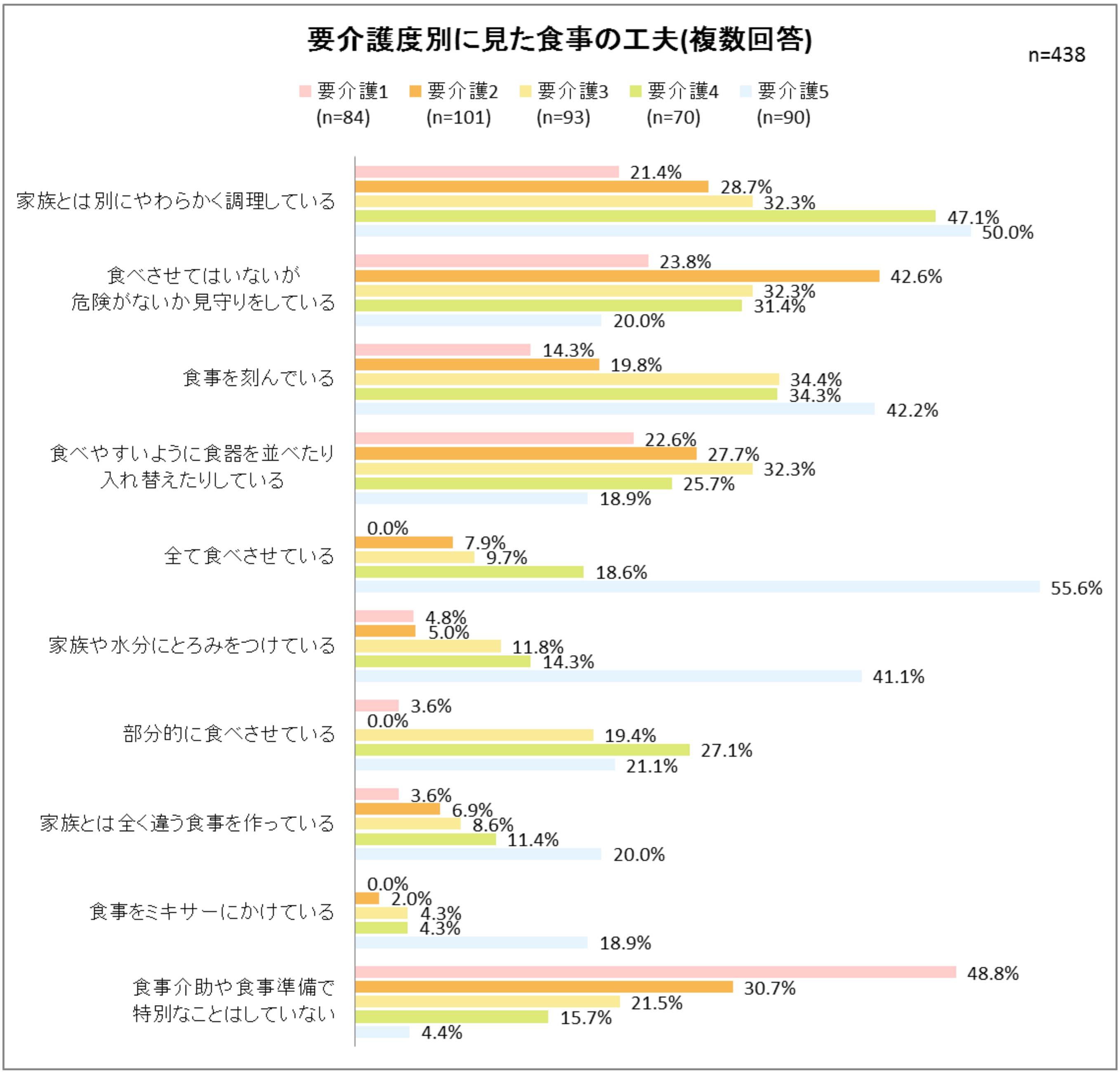
（３）要介護度による違い

食事に関する介護者の具体的な介護方法を要介護度別に見てみると、要介護度が高くなるにつれて、対応は様々でも何らかの介助や工夫が必要になっていることがわかります。

要介護度が高くなることで、やわらかく調理している方が増え、家族と同じ食事での対応が困難となっていくことがわかります。特に要介護５の方は、見守りや食器の入れ替えといった自立支援のための簡単な介助の割合が減り、調理や介護の割合が増える傾向が見られました。

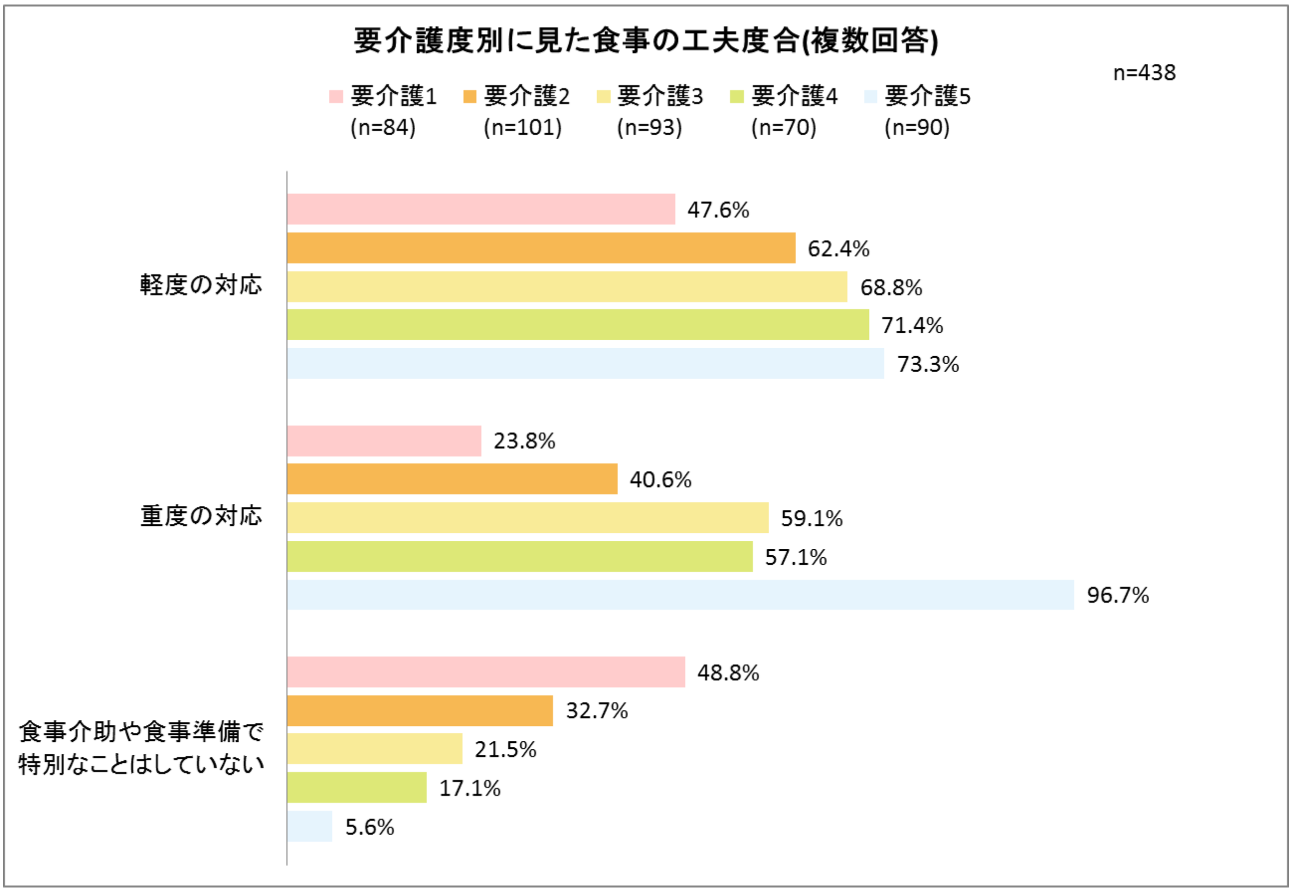
水分に対してとろみを付ける対応は、要介護５になると急激に増加が見られることから、水分誤嚥に対する対応は特に要介護５では重要となってくると思われます。現在とろみ調整剤を使っていると回答している方は 53 名なので、残りの 14 名は片栗粉など別なものを利用して対応をしている可能性が考えられます。

図Ⅰ-2-2-3：要介護度別に見た食事の工夫(複数回答)



介護者の食事に関する介護の工夫について、比較的軽度者向けの対応（食器の並べ替え、部分的介助、やわらかく調理、刻む、見守り）と摂食・嚥下障害などの重度者向けの対応（全く違う食事、ミキサー、とろみ、全て食べさせる）とに分けて比較してみると、要介護度が高くなるにつれて、軽度、重度共に対応する割合が高くなる傾向が見られました。要介護５では特に、重度者向けの対応の割合が高くなりました。

図Ⅰ-2-2-4：要介護度別に見た食事の工夫度合(複数回答)

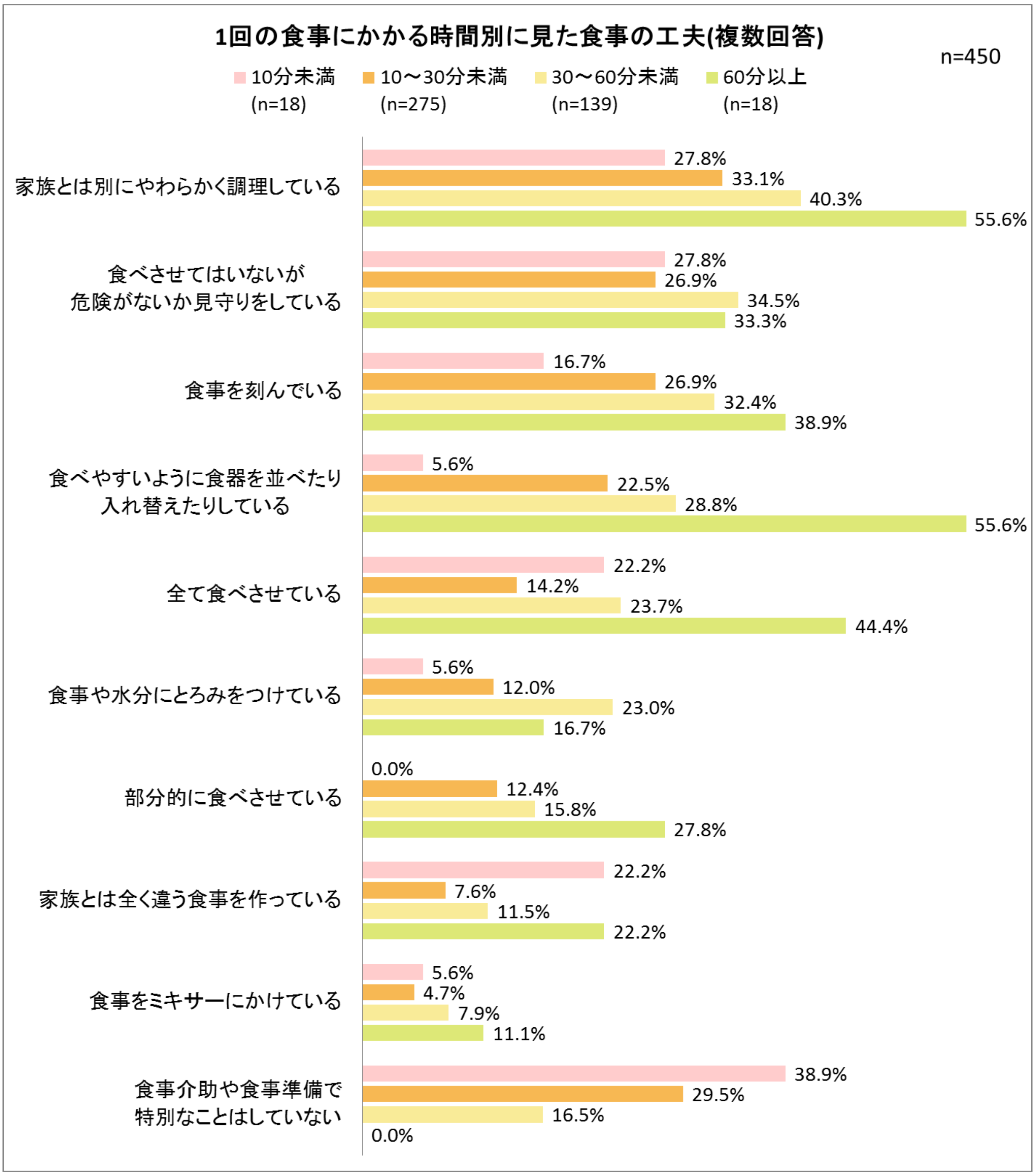


（軽度の対応・・・食器の並べ替え、部分的介助、やわらかく調理、刻む、見守り
重度の対応・・・全く違う食事、ミキサー、とろみ、全て食べさせる）

（４）要介護者の食事にかかる時間による違い

１回の食事に 60 分以上かかっている要介護者に対しては、介護者も何らかの工夫や対応を取っていますが、食事時間は短縮されていません。10 分未満の場合は、何もしていない割合が最も高い一方で、重度な対応の割合が高いという、相反する傾向が見られます。これは、重度な対応（全く違う食事、ミキサー、とろみ、全て食べさせる）により、時間が短縮できているというわけではなく、摂取が適切にできないまま、食事を中止している可能性も考えられます。

図Ⅰ-2-2-5：１回の食事かかる時間別に見た食事の工夫(複数回答)

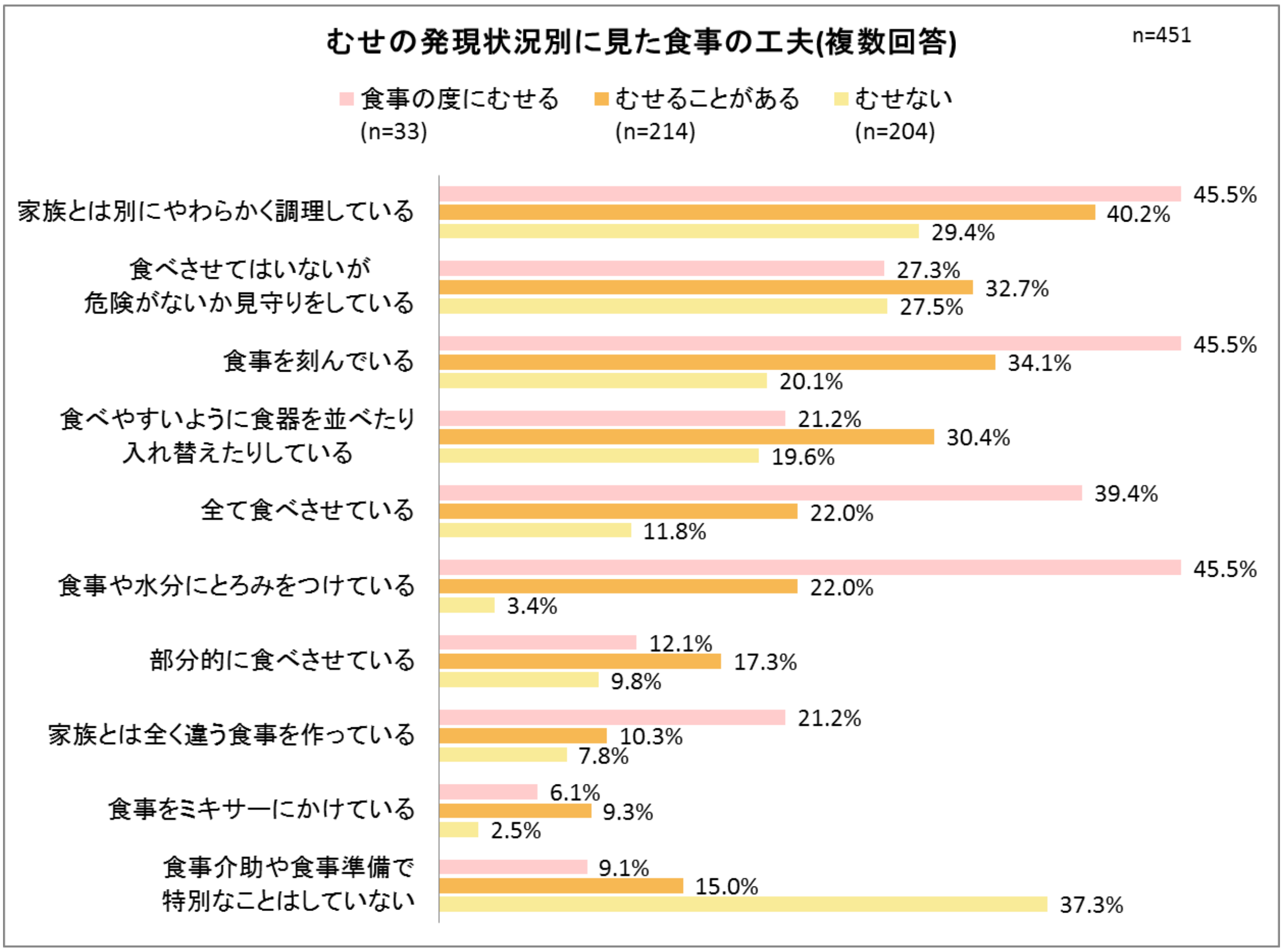


（５）要介護者のむせの発現状況による違い

「食事の度にむせる」と回答した世帯の方が、「家族とは別にやわからく調理している」「食事を刻んでいる」「全て食べさせている」「食事や水分にとろみを付けている」対応をしている割合が多いという結果でした。

「食事中にむせることがある」と回答した世帯では、「家族とは別にやわらかく調理している」「食事を刻んでいる」という食事の硬さへの対応が多いものの、「水分にとろみを付けている」と回答した割合は硬さへの対応と比べて低い結果でした。

図Ⅰ−2-2-6：むせの発現状況別に見た食事の工夫(複数回答)



第３節 利用している食材や食品に関する集計結果

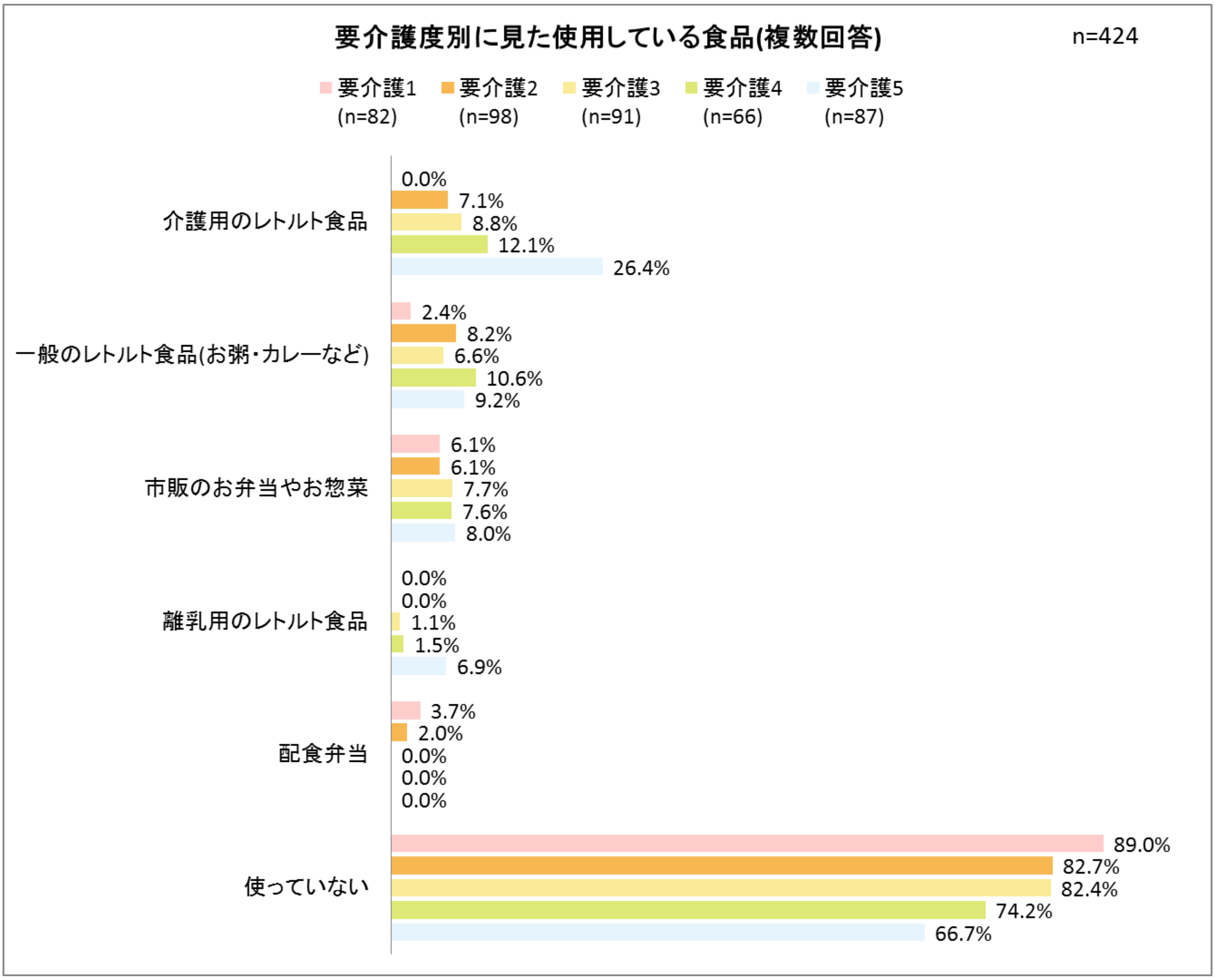
１．介護用食品の利用

（１）要介護度による違い

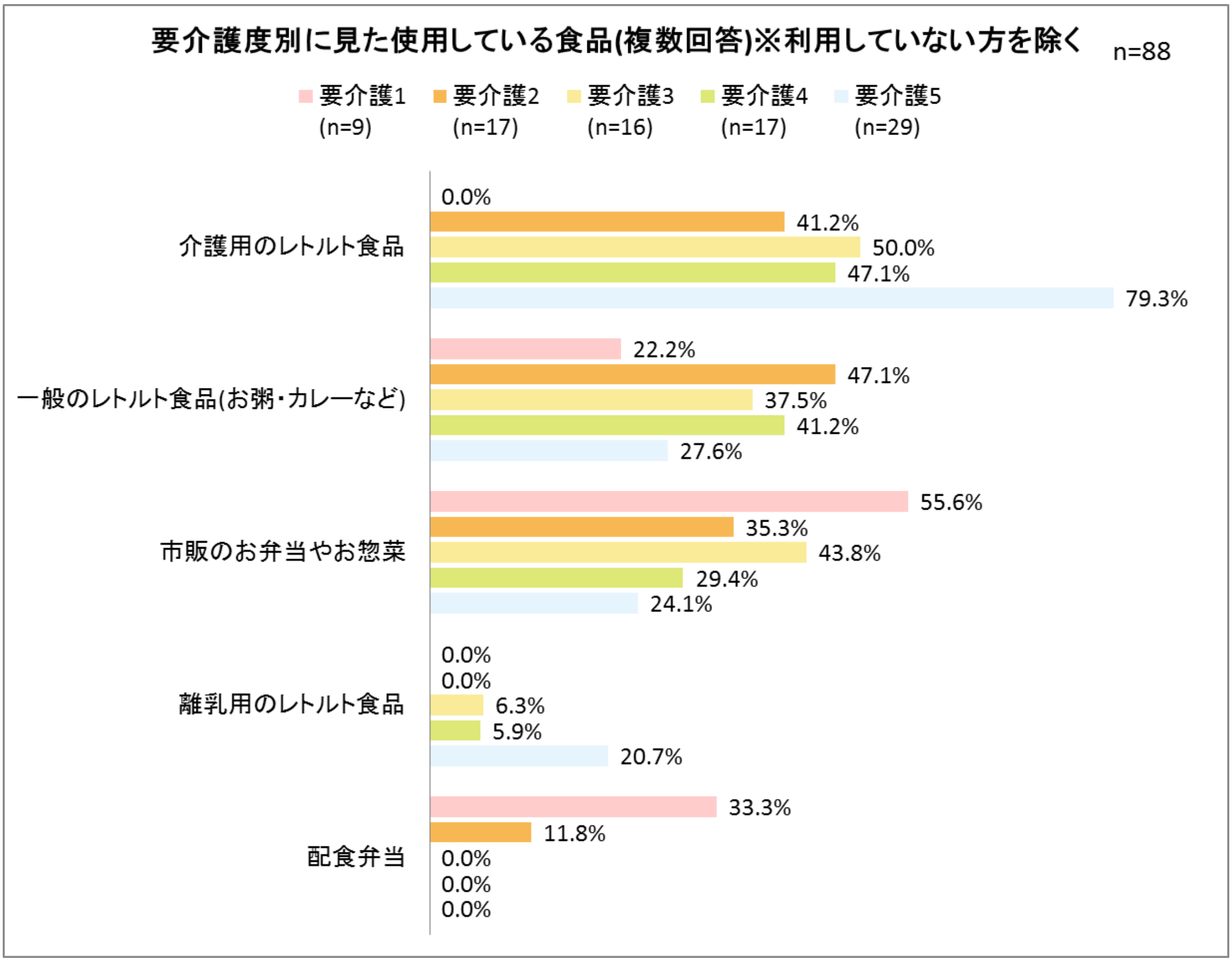
要介護度別に利用している食品を見てみると、要介護度が高くなるにつれて家族と異なる食品の活用が増加しています。介護用のレトルト介護食も要介護度が高くなるにつれて利用が増加する傾向が見られ、特に要介護５の世帯の利用が増加する傾向にあります。

配食弁当は要介護１，２では利用されている割合が高く、要介護３以上になると、全く利用がないという結果でした。

図Ⅰ-2-3-1：要介護度別に見た使用している食品(複数回答)



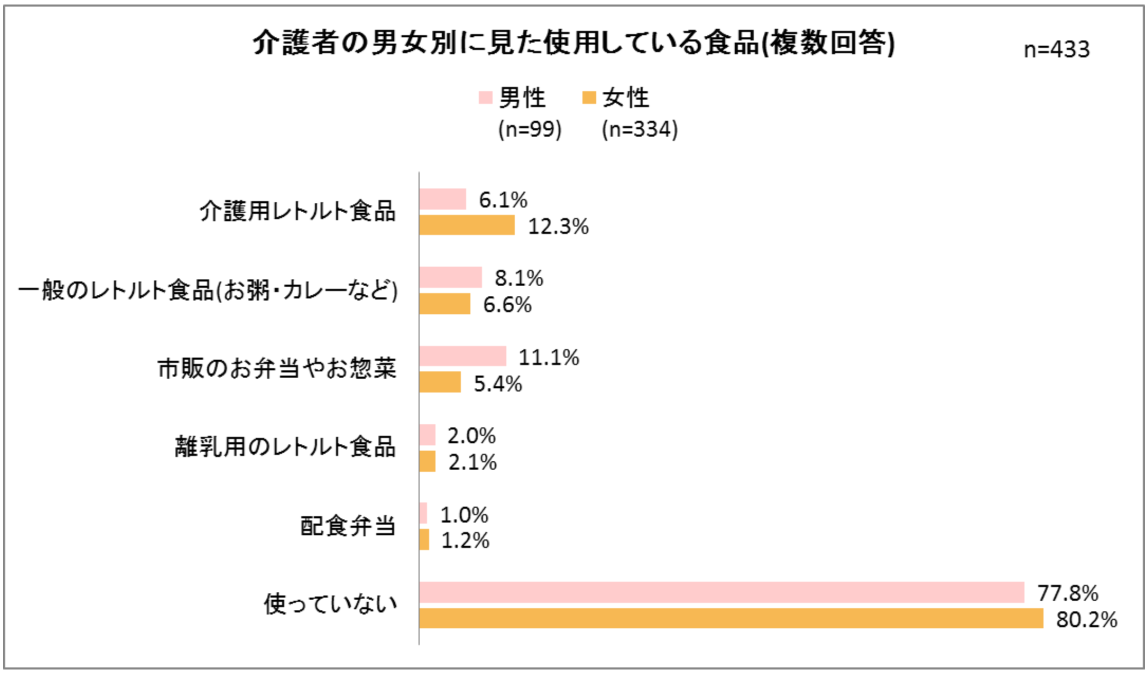
図Ⅰ-2-3-2：要介護度別に見た使用している食品(複数回答)※利用していない方を除く



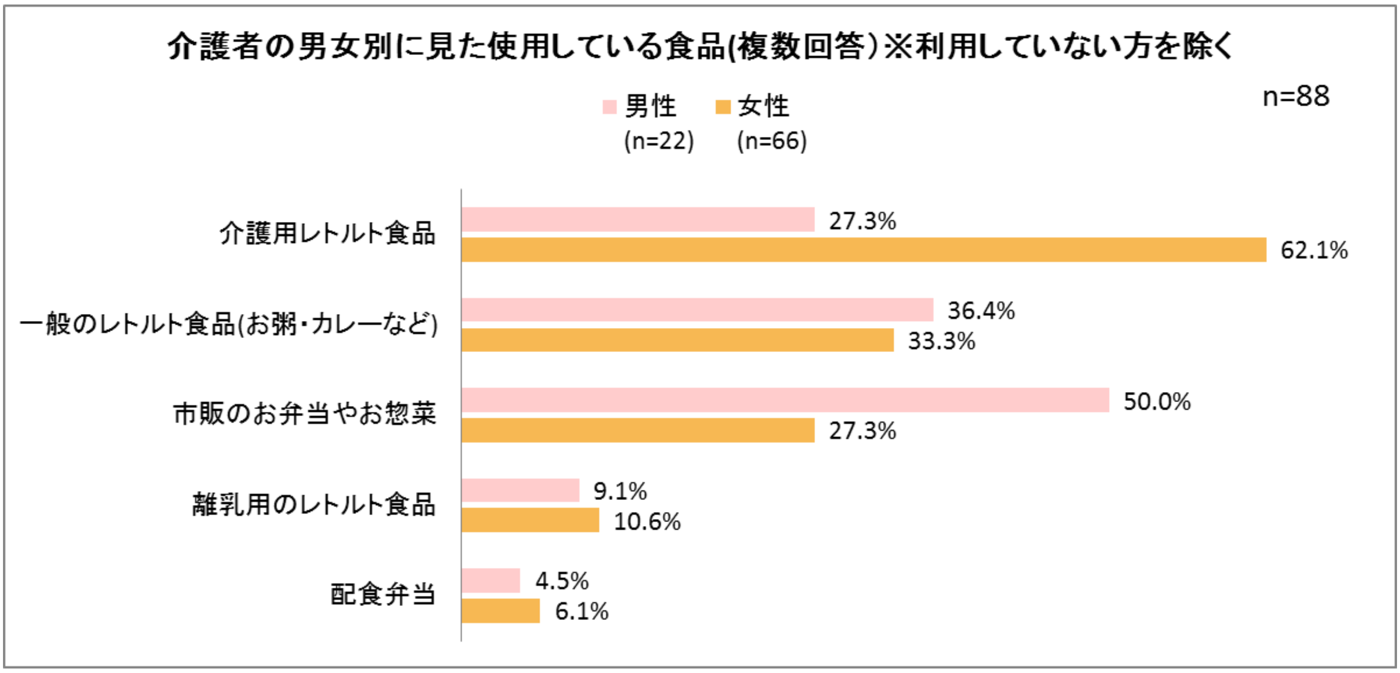
（２）介護者の性別による違い

介護者の性別で比較してみると、女性の方が男性と比べ、「介護用のレトルト食品」を利用する割合が高い傾向が見られました。一方、男性は女性に比べ、「一般のレトルト食品」や「市販のお弁当やお惣菜」を利用する割合が高いという結果でした。

図Ⅰ-2-3-3：介護者の男女別に見た使用している食品(複数回答)



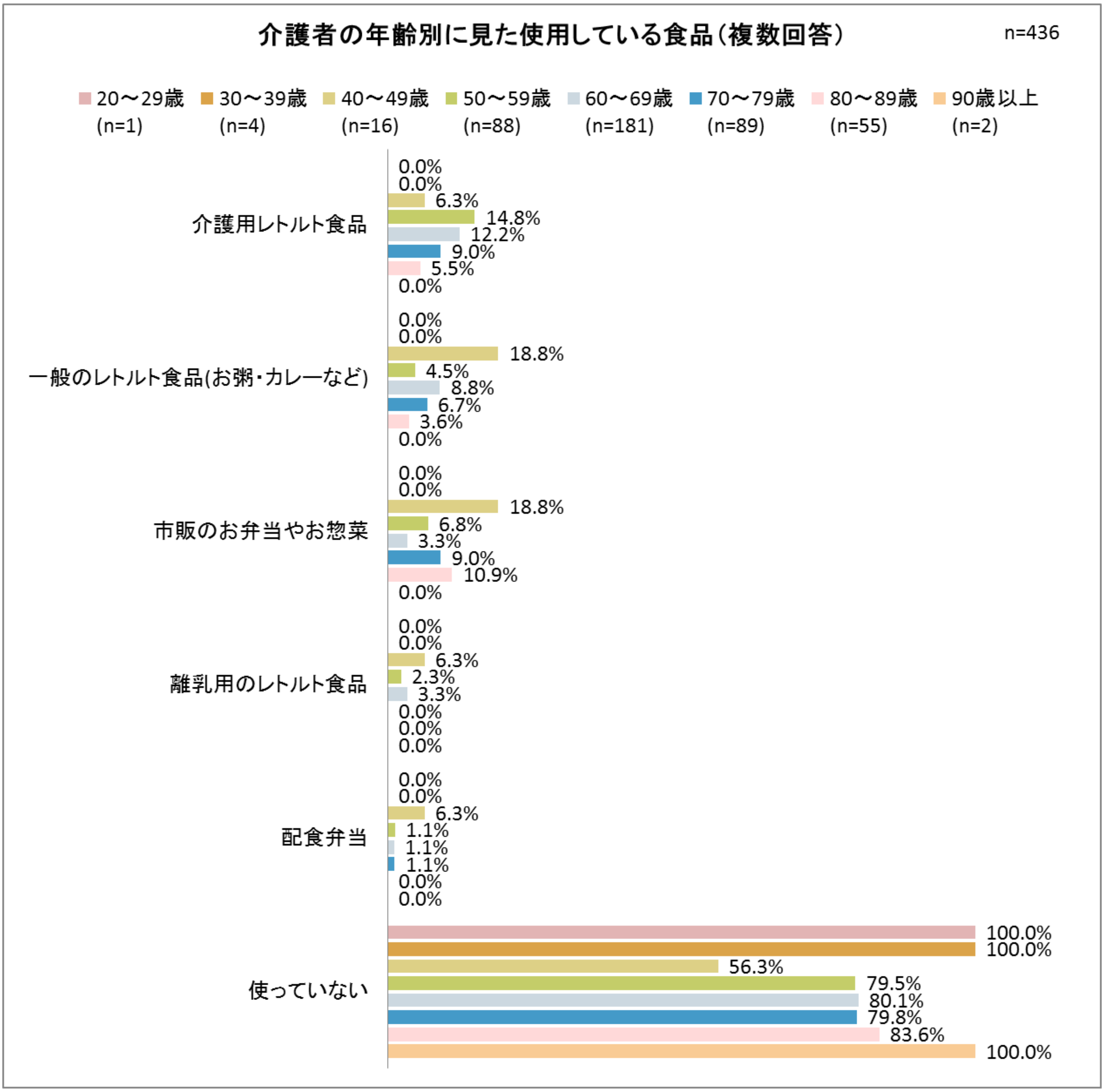
図Ⅰ-2-3-4：介護者の男女別に見た使用している食品(複数回答)※利用していない方を除く



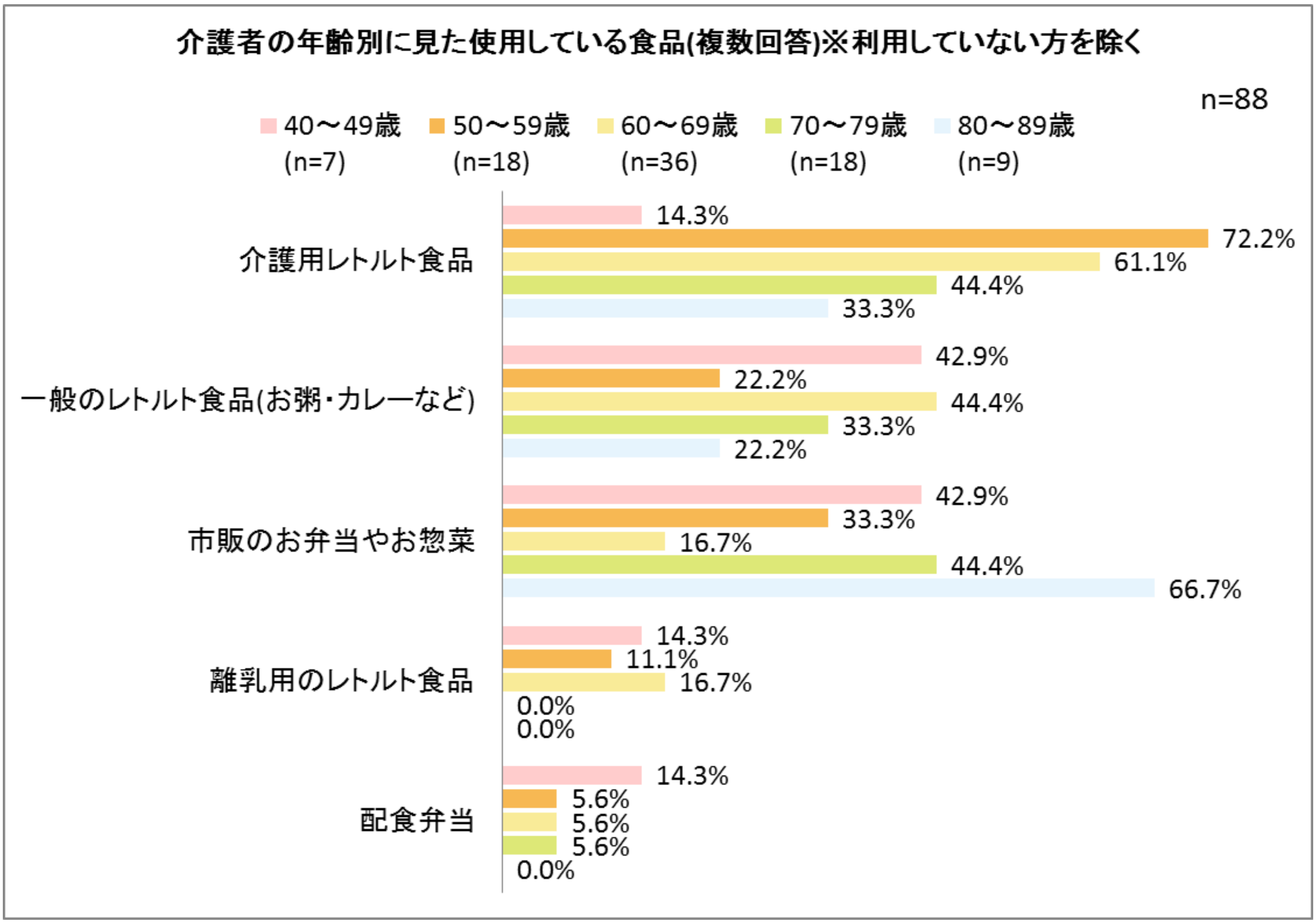
（３）介護者の年齢による違い

介護者の年齢別に見てみると、50 代は他の年代に比べて「介護用のレトルト食品」を利用している割合が高い傾向がありますが、年齢が高くなるにつれて利用率が低下しています。

図Ⅰ-2-3-5：介護者の年齢別に見た使用している食品(複数回答)



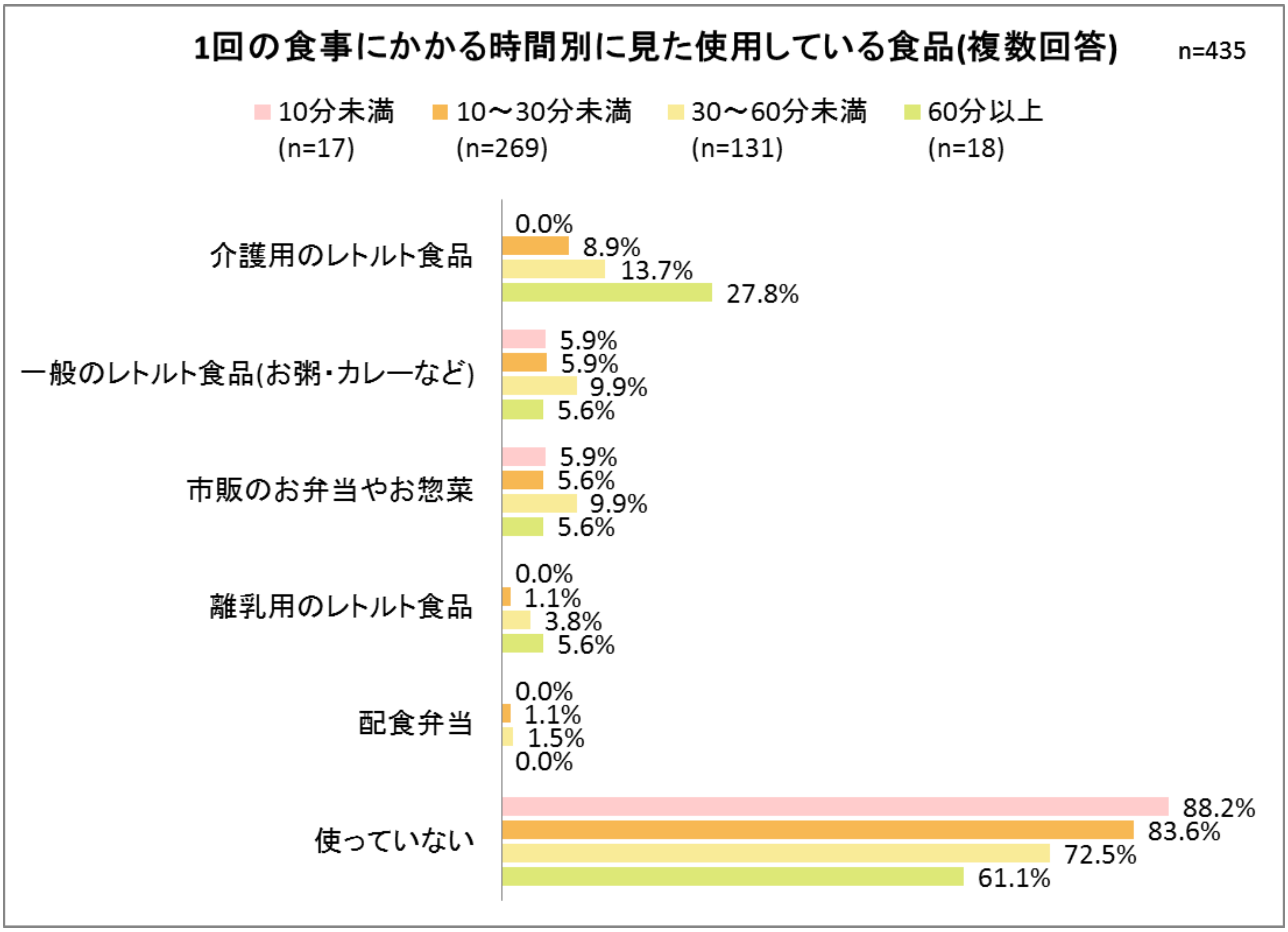
図Ⅰ-2-3-6：介護者の年齢別に見た使用している食品(複数回答)※利用していない方を除く



（４）要介護者の食事にかかる時間による違い

食事時間が長くなるにつれて、特別な食品を利用している割合が高くなる傾向が見られます。特に「介護用のレトルト食品」は食事時間の増加に合わせて利用が増加しています。

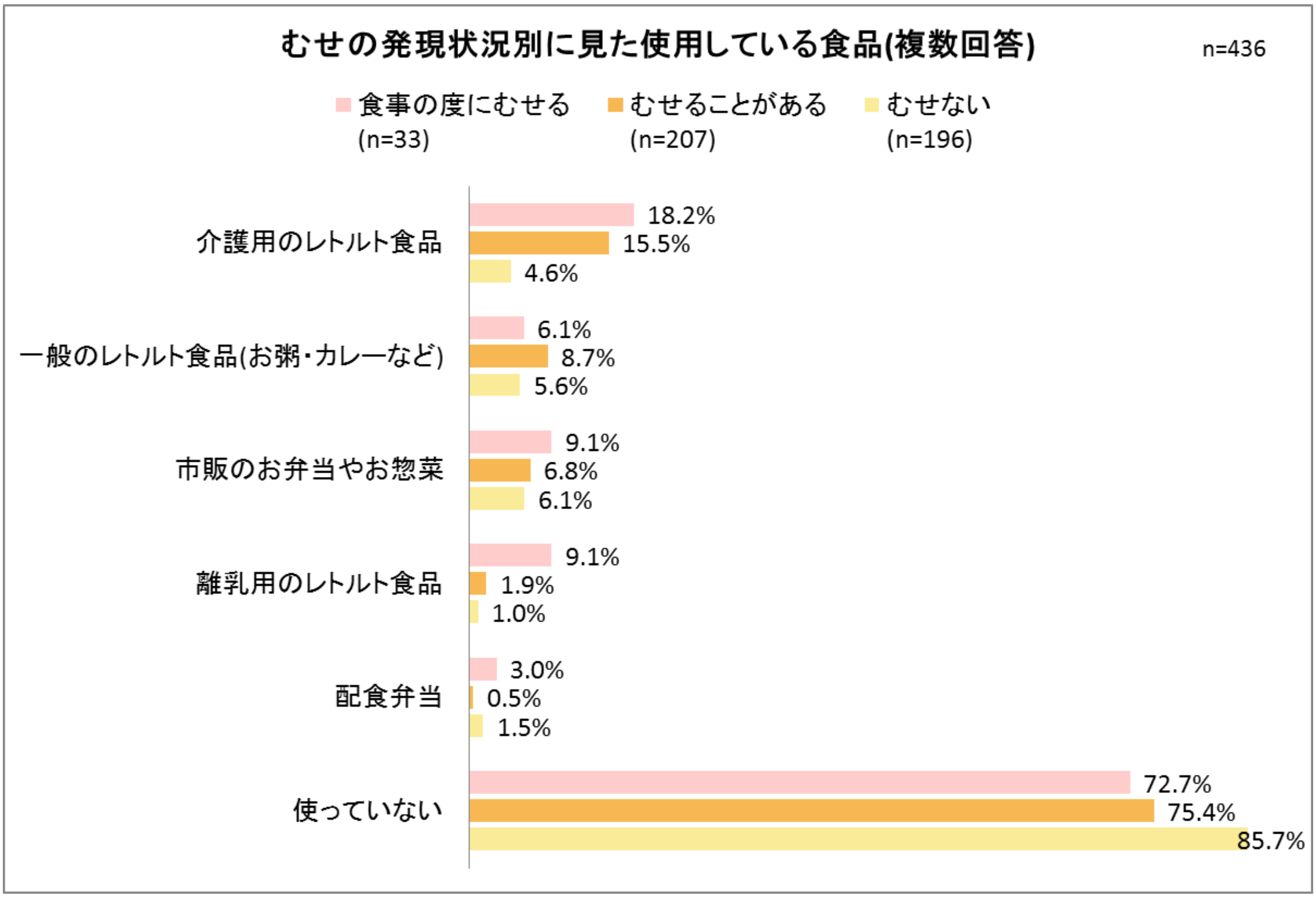
図Ⅰ-2-3-7： １回の食事にかかる時間別に見た使用している食品(複数回答)



（５）要介護者のむせの発現状況による違い

むせの発現割合が高い方が、家族とは別な食品を利用する割合が増加するという結果でした。特に、「介護用のレトルト食品」はむせの発現割合が高い方が、利用割合が高い傾向が見られます。

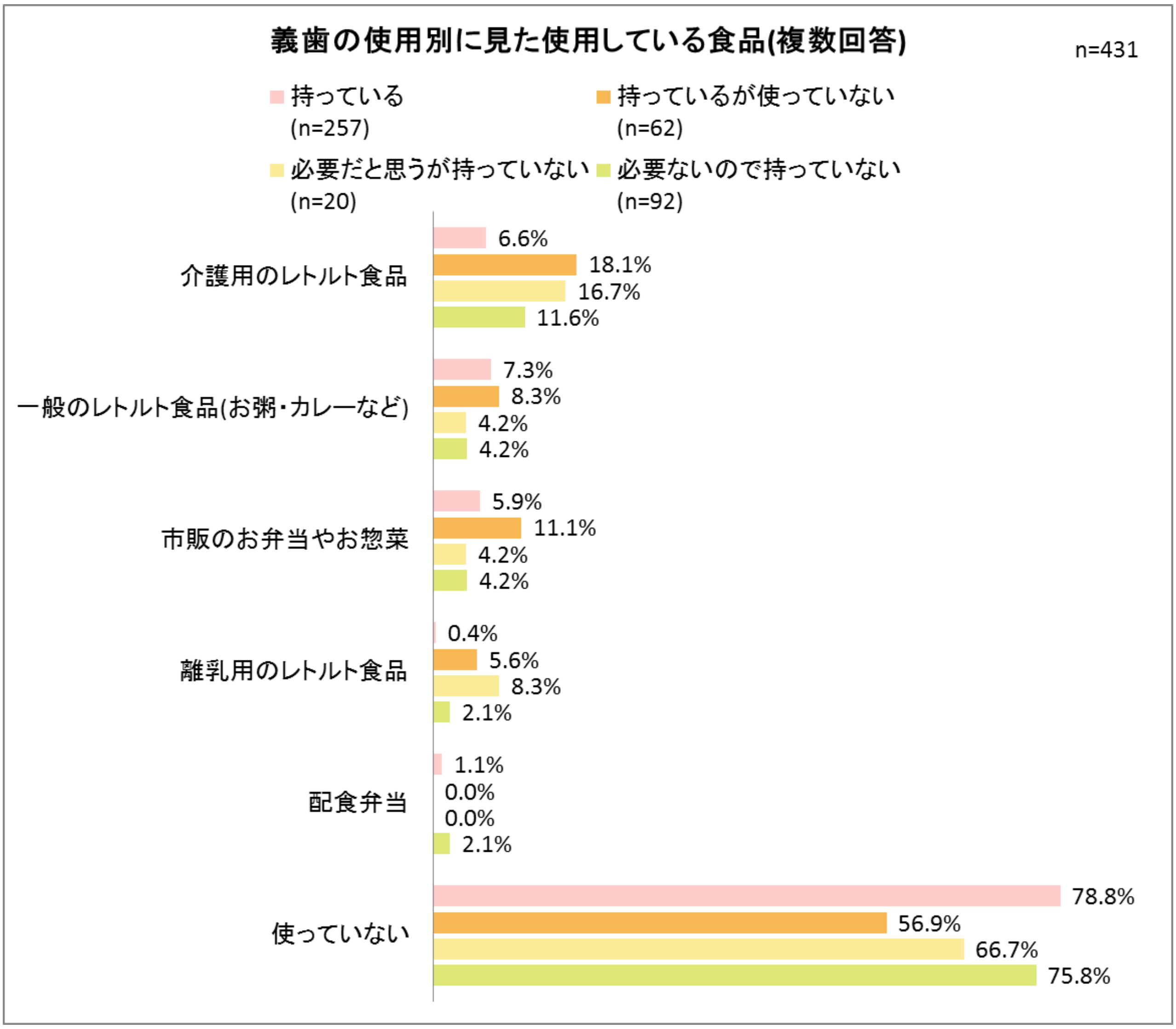
図Ⅰ-2-3-8：むせの発現状況別に見た使用している食品(複数回答)



（６）要介護者の義歯の使用による違い

義歯を使用している方に比べて義歯を使用していない方のほうが、家族とは別な食品の使用割合が高いという結果でした。特に、「持っているが使っていない」と回答された方は、「介護用のレトルト食品」などの利用が増加する傾向が見られます。

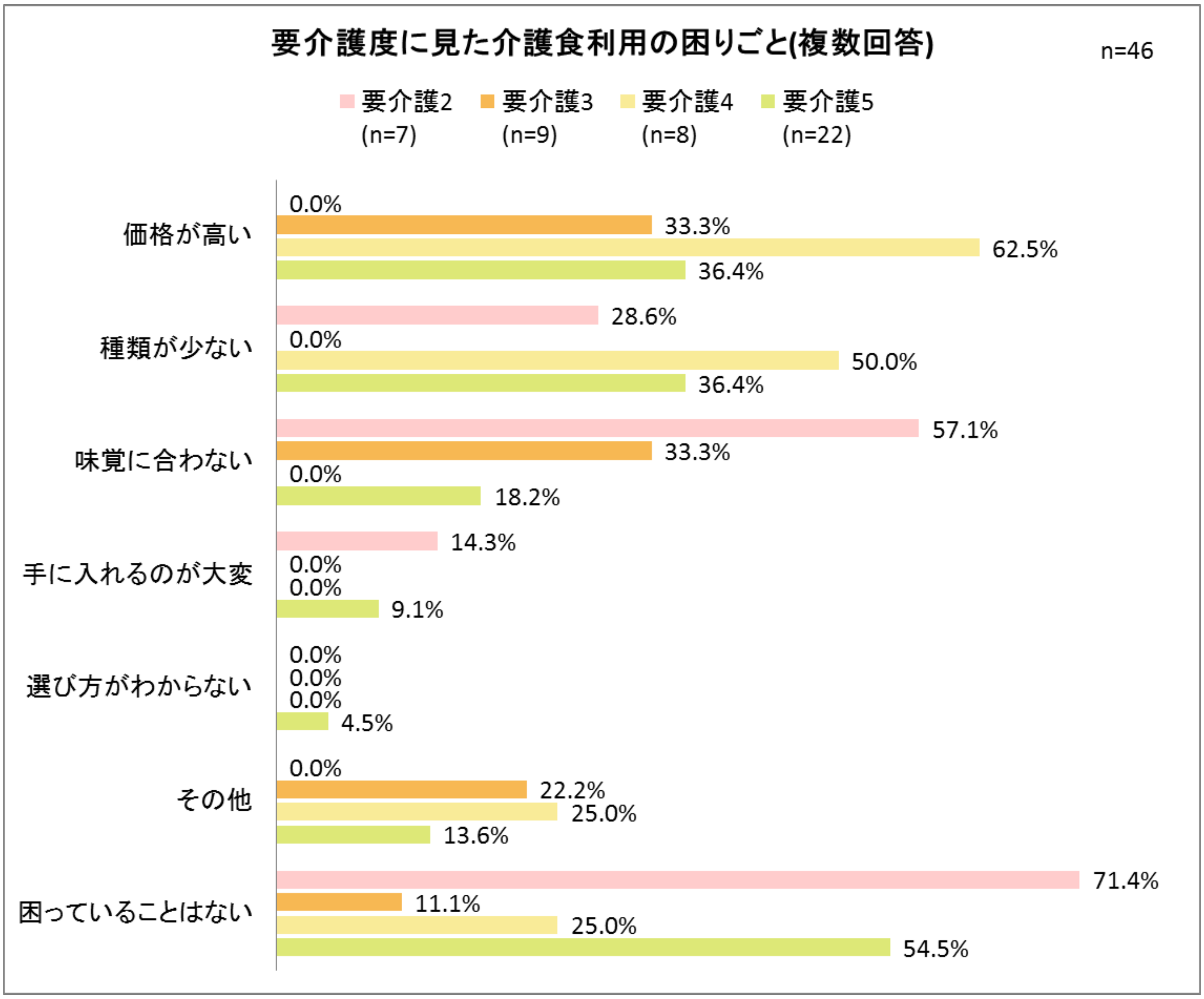
図Ⅰ-2-3-9：義歯の使用別に見た使用している食品(複数回答)



（７）要介護度による困りごとの違い

要介護度別に利用している食品の困りごとを見てみると、要介護５の方は困りごとの種類が多い傾向が見られました。

図Ⅰ-2-3-10：要介護度に見た介護食利用の困りごと(複数回答)

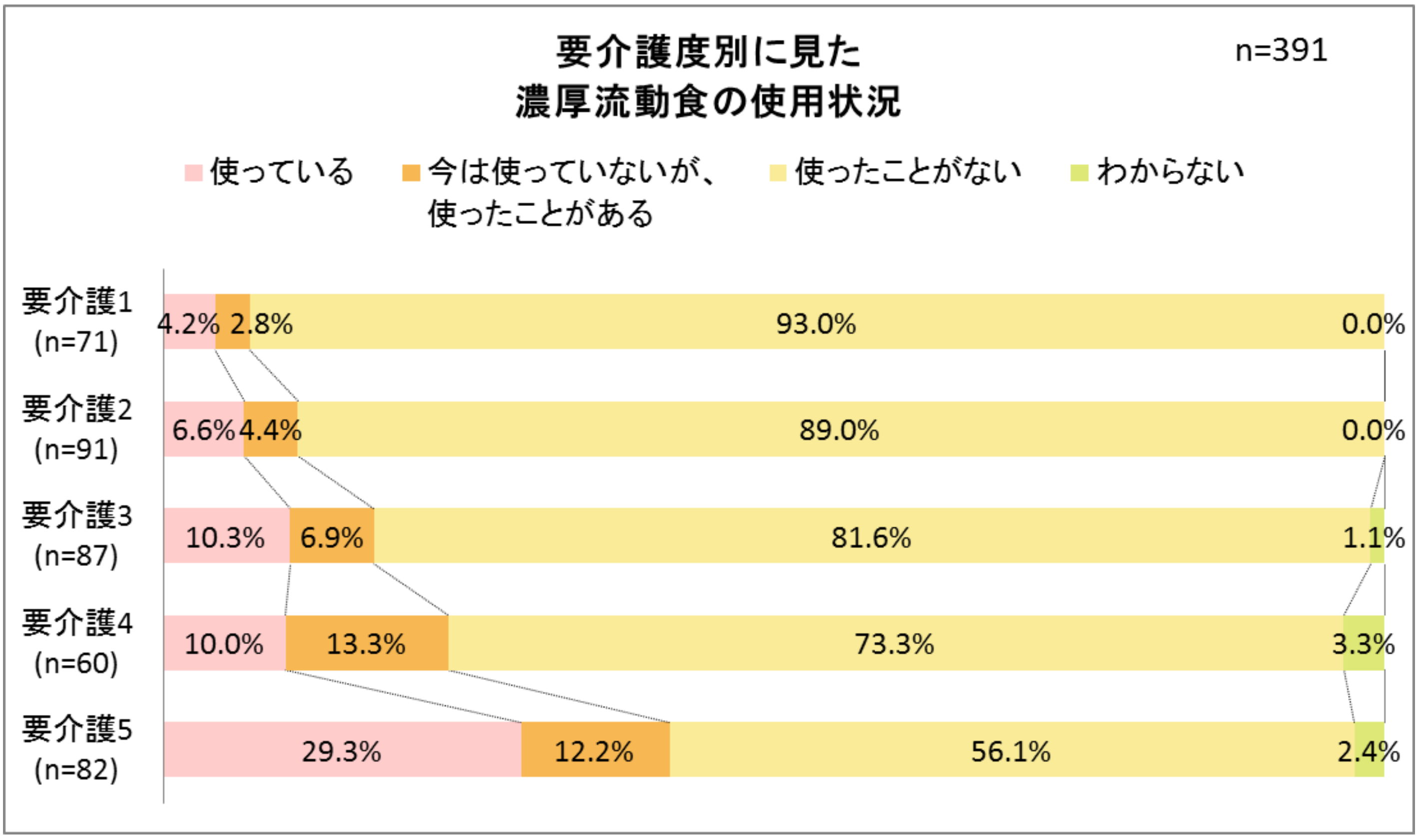


２．濃厚流動食の利用

（１）要介護度による違い

要介護度別に見てみると、要介護度が高くなるにつれて、濃厚流動食の利用割合が高い傾向が見られます。特に、要介護５では 29.3%の方が現在も「使っている」と回答しており、過去の利用を含めると 41.5%の方が利用をしたことがあるという結果でした。

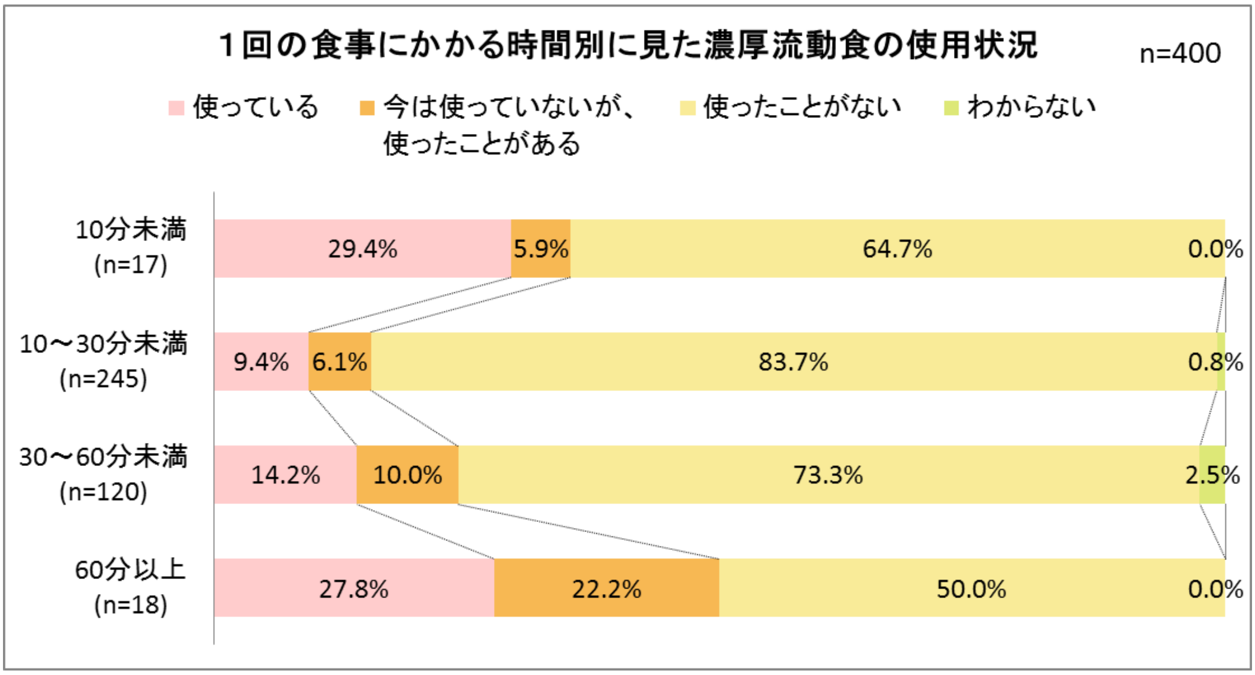
図Ⅰ-2-3-11：要介護度別に見た濃厚流動食の使用状況



（２）要介護者の食事にかかる時間による違い

１回の食事時間が 10 分未満の方が最も濃厚流動食の利用割合が多く、次いで 60 分以上が多いという結果でした。

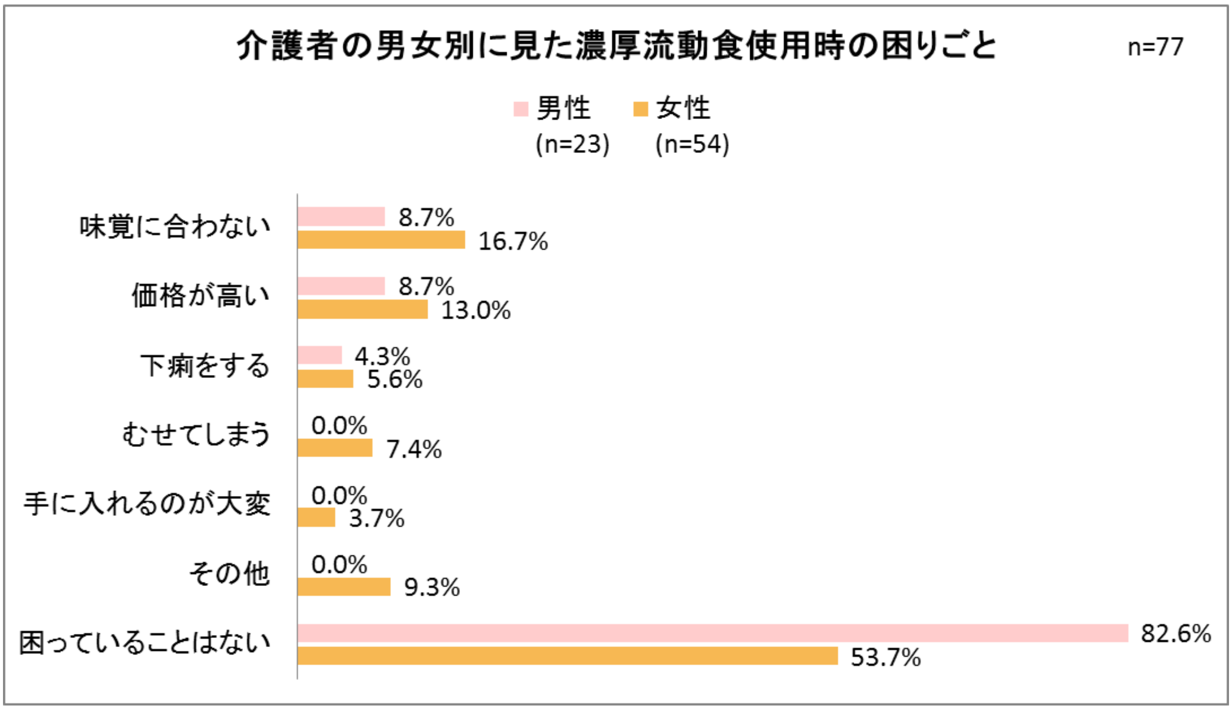
図Ⅰ-2-3-12：１回の食事にかかる時間別に見た濃厚流動食の使用状況



（３）介護者の性別による違い

男性介護者に比べて、女性介護者の方が濃厚流動食の利用について困りごとを感じている割合が高い傾向が見られました。

図Ⅰ-2-3-13：介護者の男女別に見た濃厚流動食使用時の困りごと(複数回答)

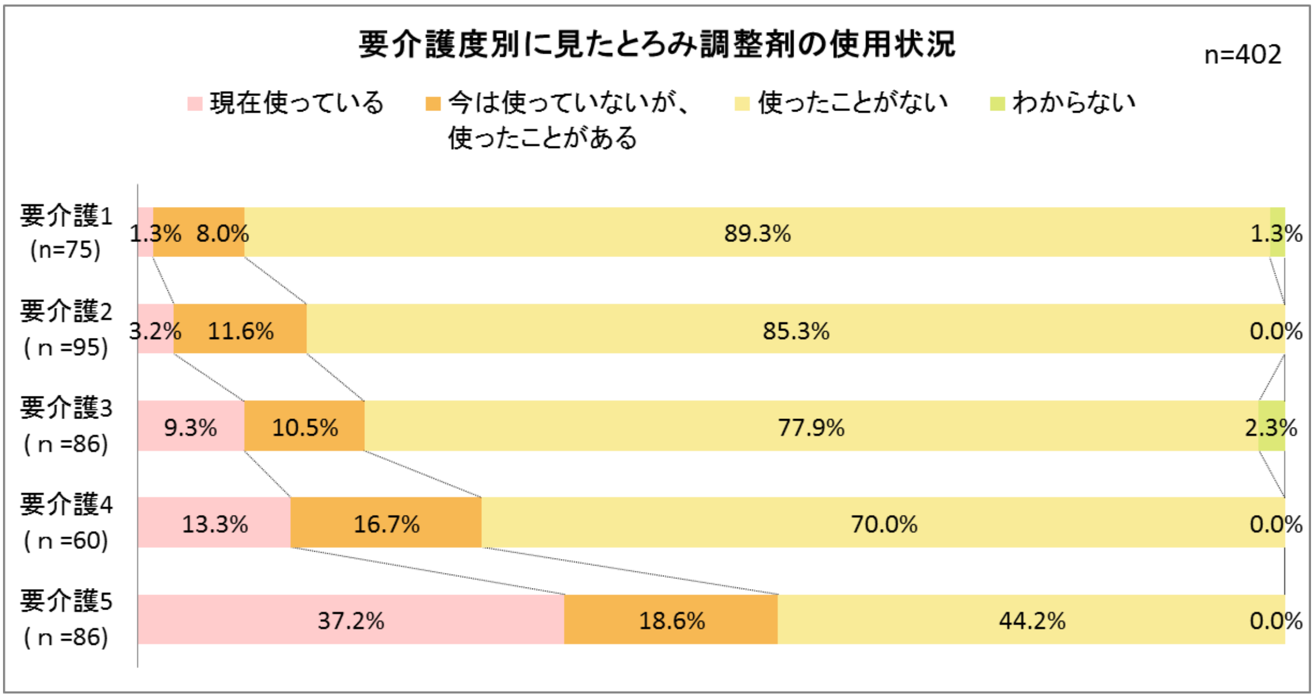


３．とろみ調整剤の利用

（１）要介護度による違い

要介護度別に見ると、要介護度が高くなるにつれて、とろみ調整剤の使用割合が高い傾向が見られました。

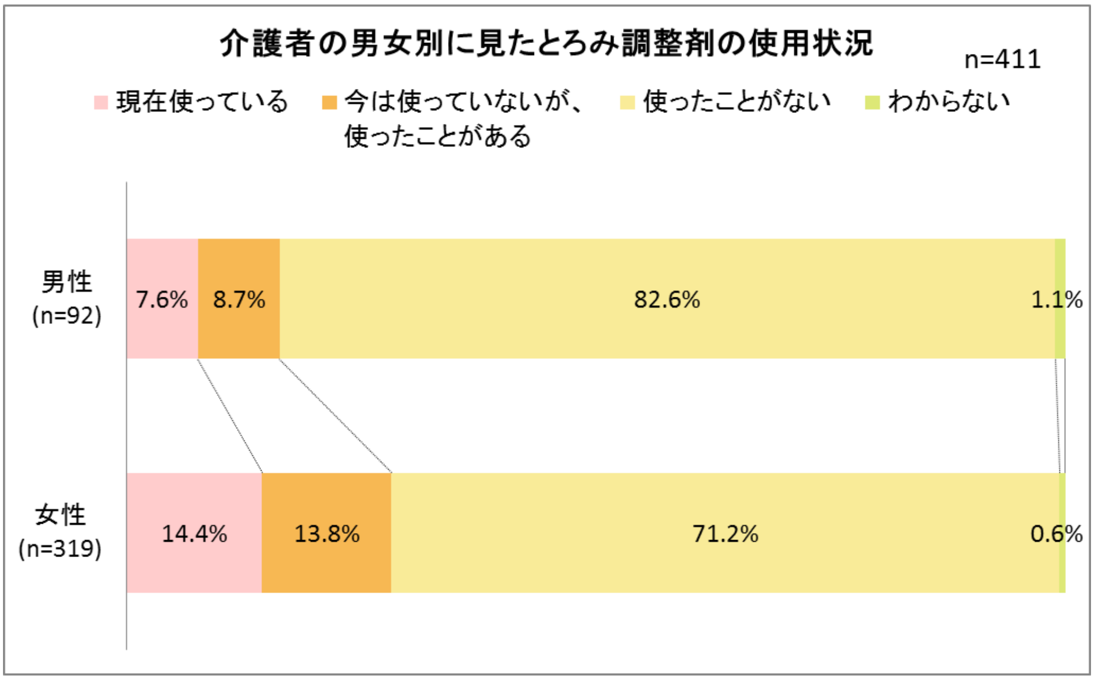
図Ⅰ−2-3-14：要介護度別に見たとろみ調整剤の使用状況



（２）介護者の性別による違い

介護者が男性の方がとろみ調整剤の使用割合が低いという結果でした。

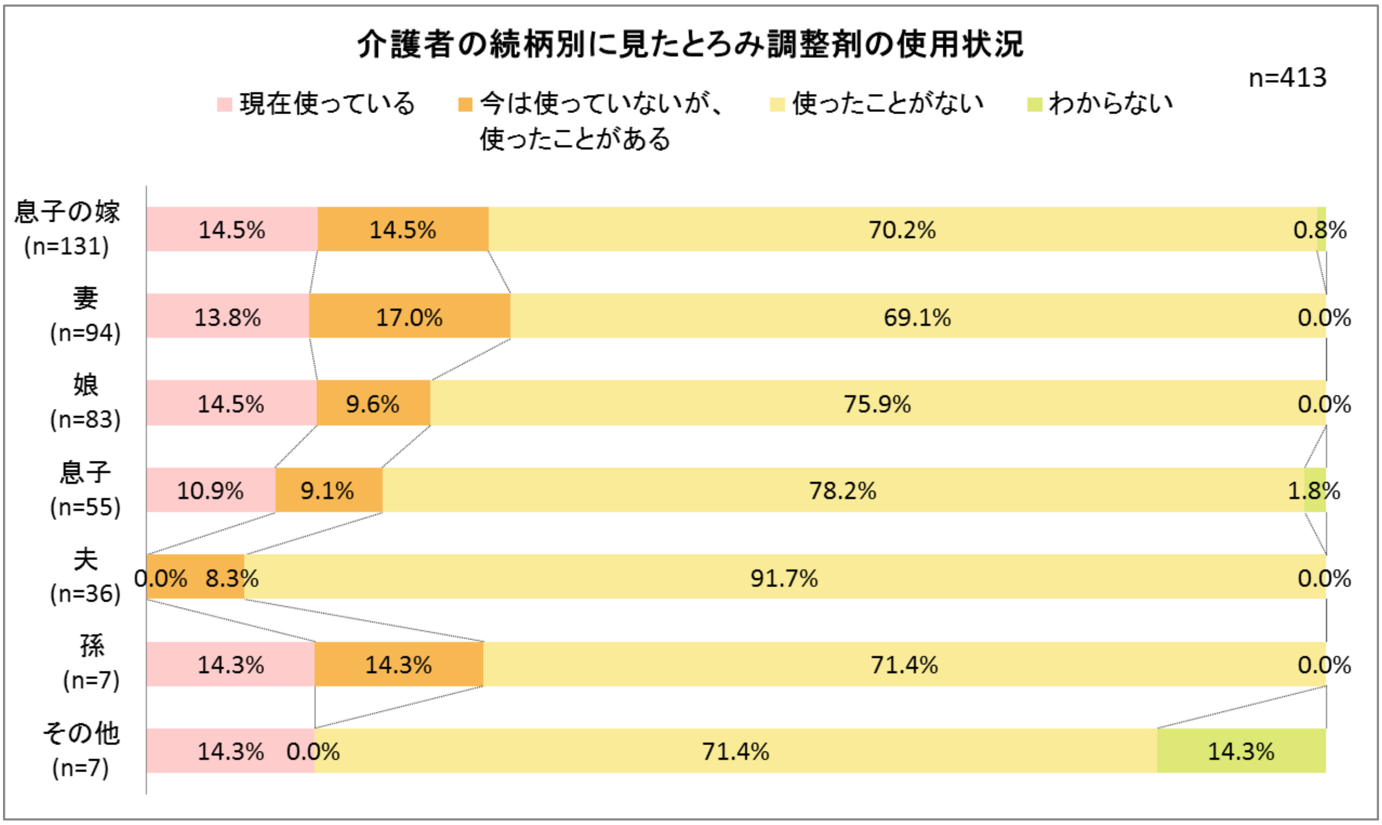
図Ⅰ−2-3-15：介護者の男女別に見たとろみ調整剤の使用状況



（３）介護者の続柄による違い

夫が介護者の場合は過去にとろみ調整剤を使っている方はいるものの、現在使っている方は全くいないという結果でした。

図Ｉ-2-3-16：介護者の続柄別に見たとろみ調整剤の使用状況



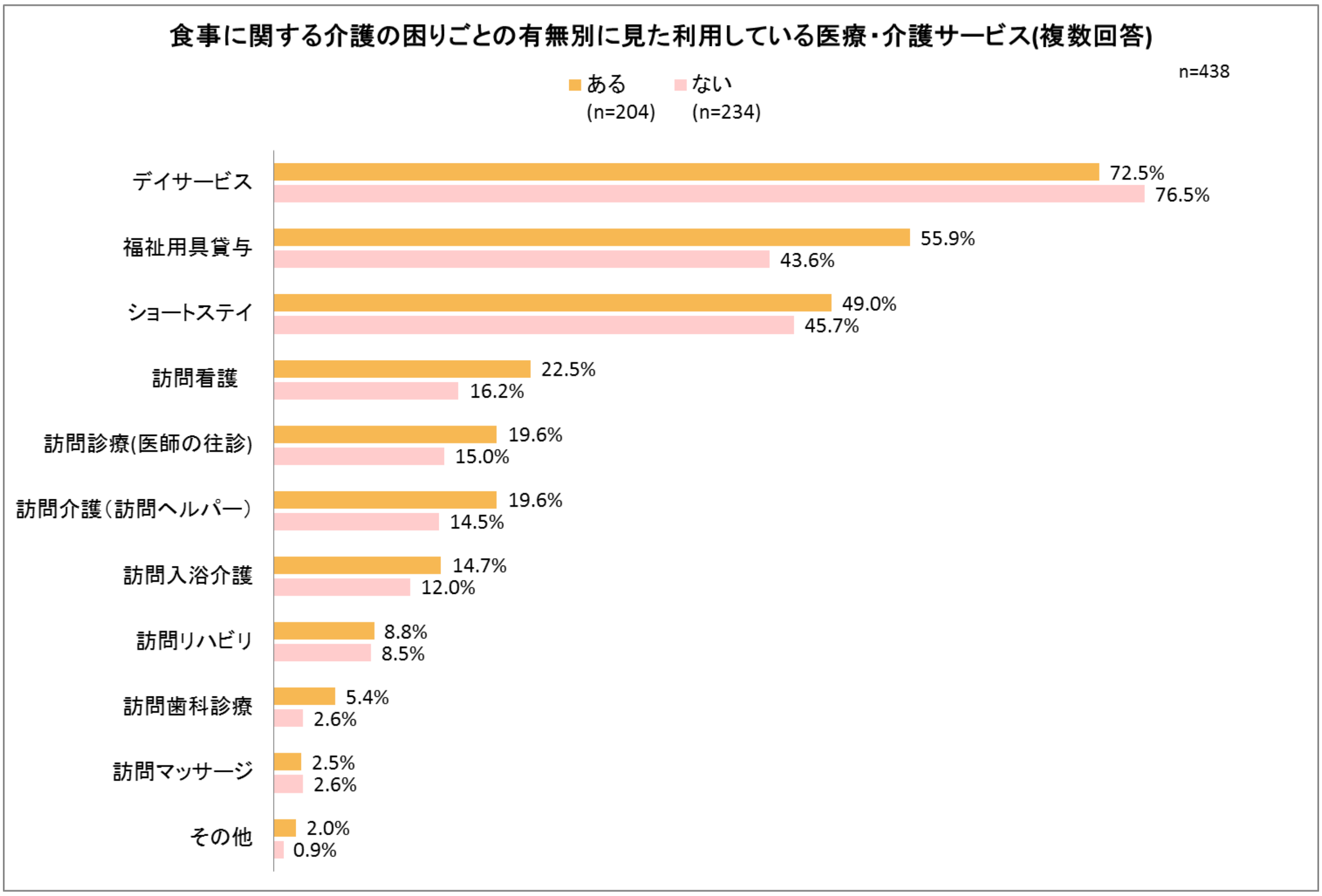
第４節　在宅における食に関する介護の困りごとに関する集計結果

１．食に関する介護の困りごとと原因

（１）利用している医療・介護サービスによる違い

食の確保ができるデイサービスを利用している世帯の介護者の方が、「困りごとがない」と回答している割合が高い傾向が見られました。

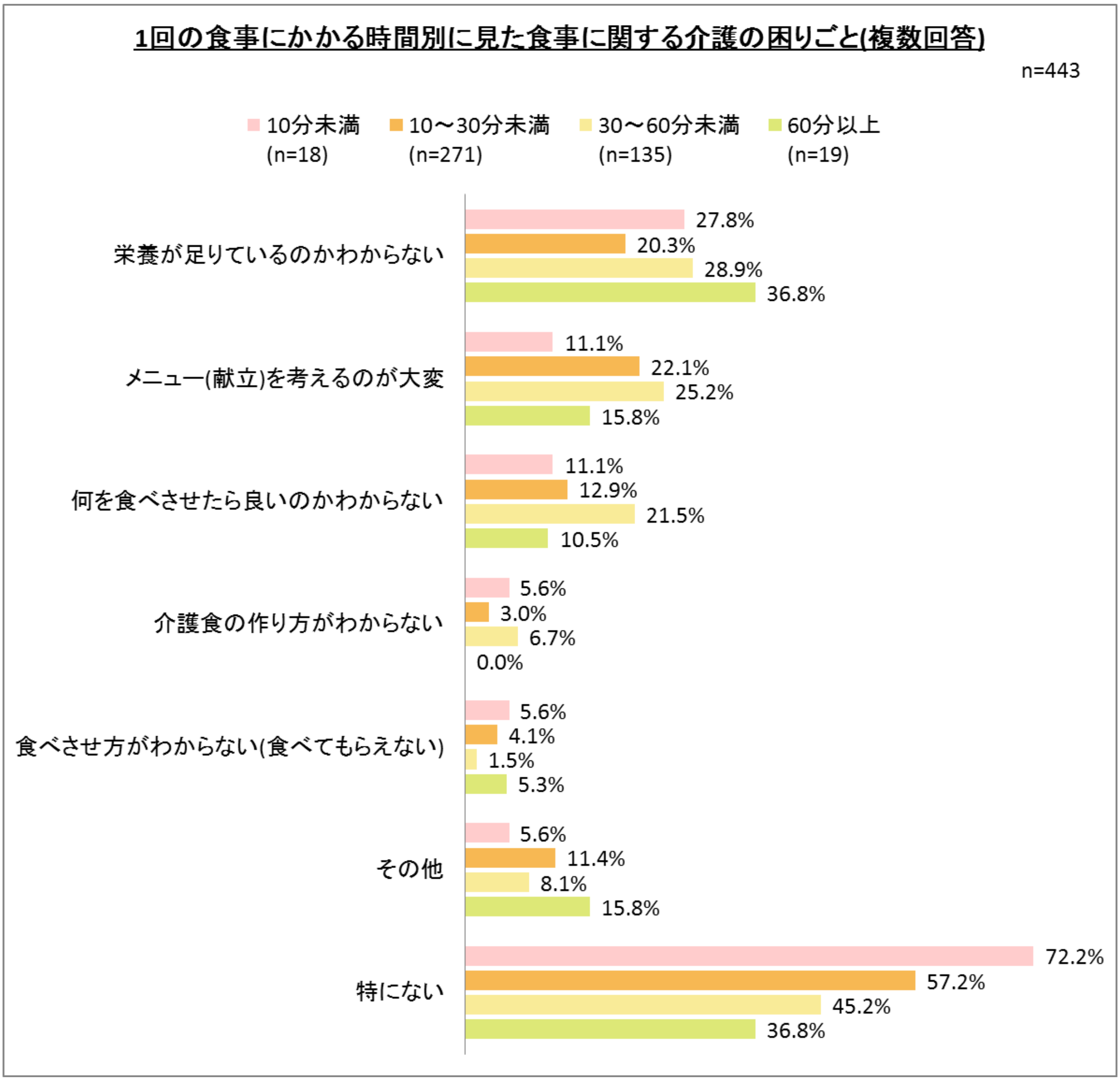
図Ｉ-2-4-1：食事に関する介護の困りごとの有無別に見た利用している医療・介護サービス(複数回答)



（２）要介護者の食事にかかる時間による違い

食事時間が長くなるにつれて食事に関する「困りごとがある」と回答する割合が高くなっています。

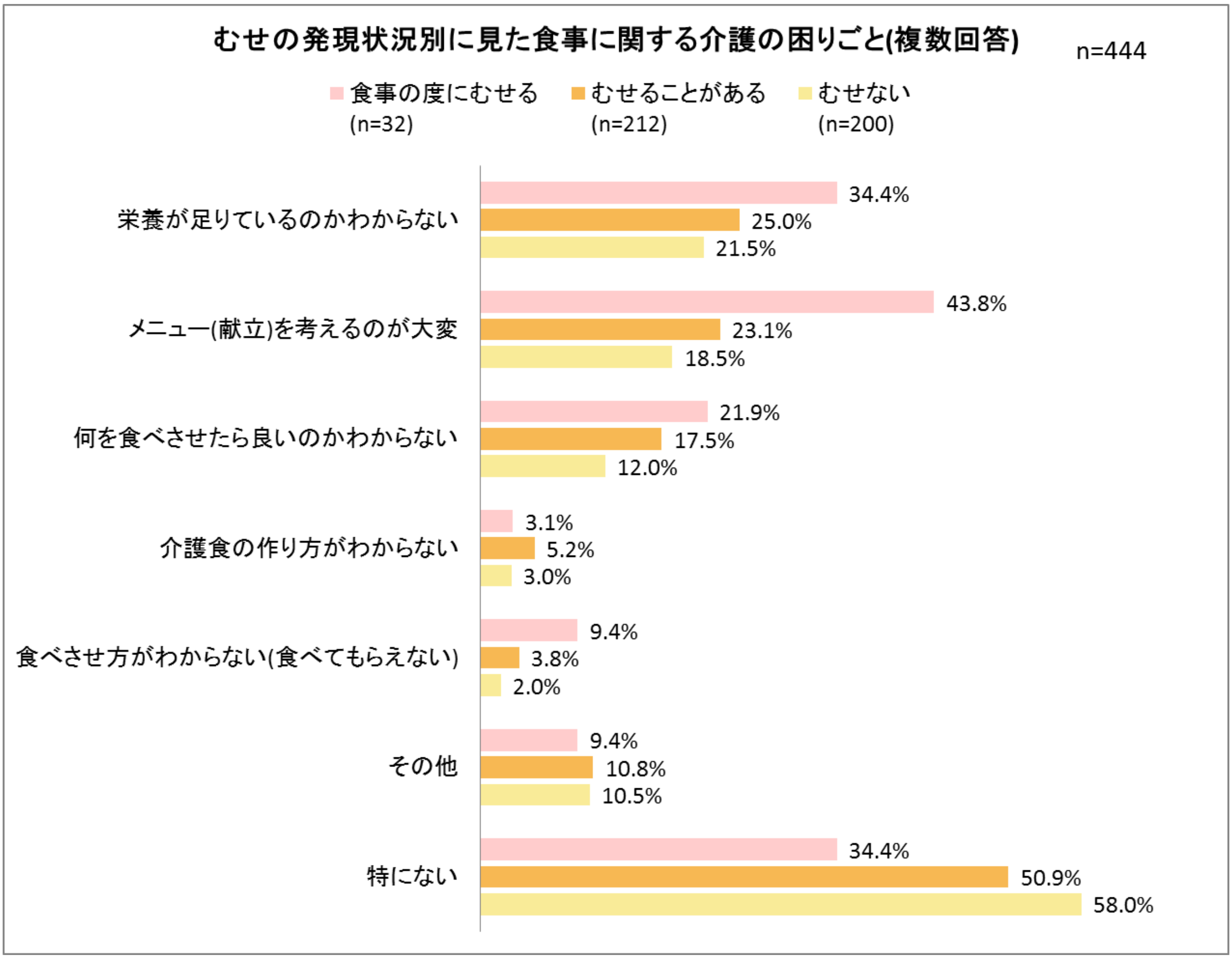
図Ⅰ-2-4-2：1回の食事にかかる時間別に見た食事に関する介護の困りごと(複数回答)



（３）要介護者のむせの発現状況による違い

むせの発現頻度が多くなるにつれて、食事に関する介護の困りごとも増加傾向に見られます。また、「むせがある」にも関わらず「困りごとがない」と回答されている方が 26.8%、119 名おり、むせを課題やリスクと介護者が感じていない現状があることがわかります。

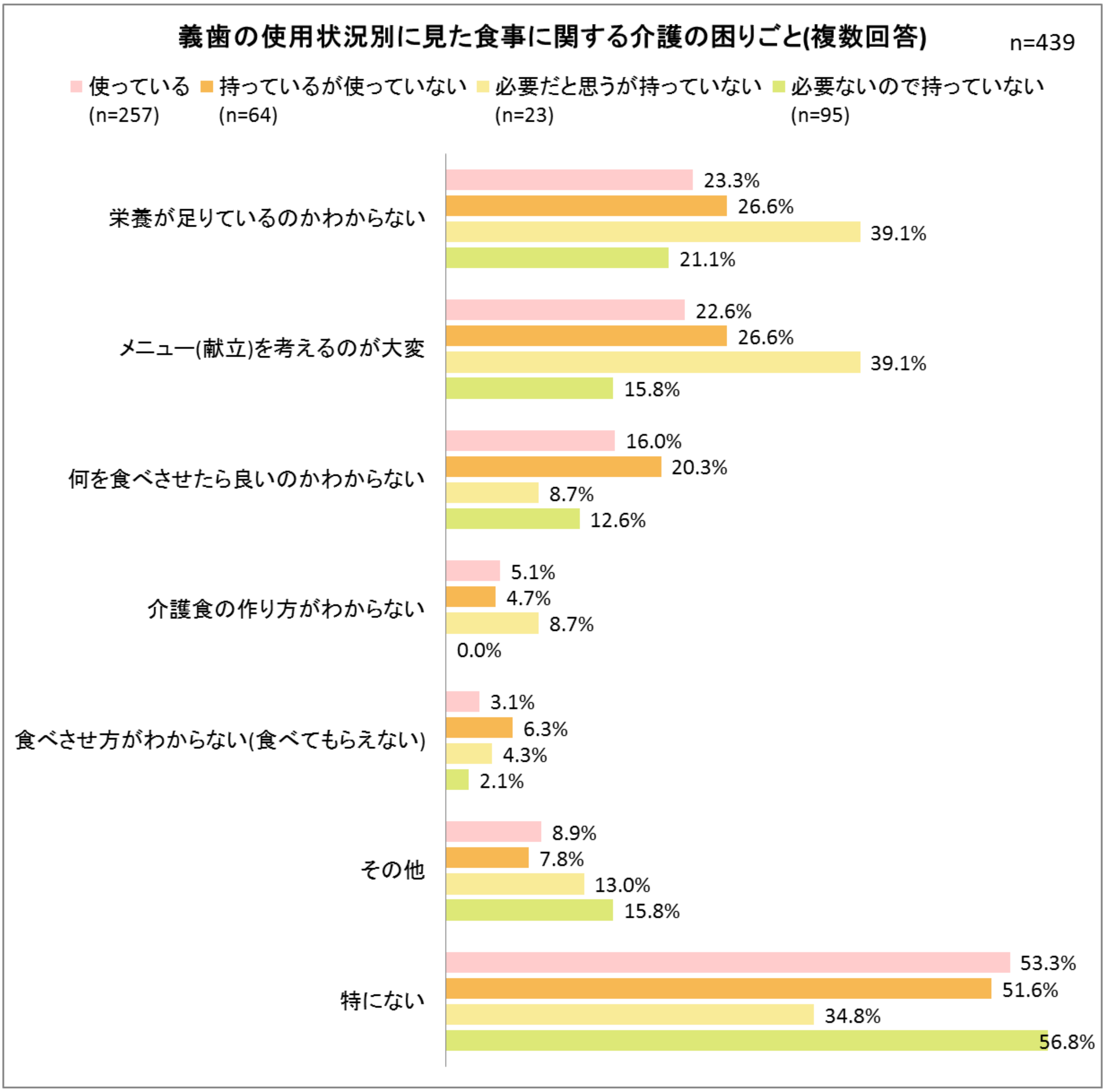
図Ｉ-2-4-3：むせの発現状況別に見た食事に関する介護の困りごと(複数回答)



（４）要介護者の義歯の使用状況による違い

義歯を「使っている」と回答した方に比べて、「必要だと思うが持っていない」と回答された方の方が、食事に関する介護の困りごとが「ある」と回答した割合が高い傾向が見られました。特に、「栄養が足りているか分からない」「メニュー（献立）を考えることが大変」という回答が多いという結果でした。

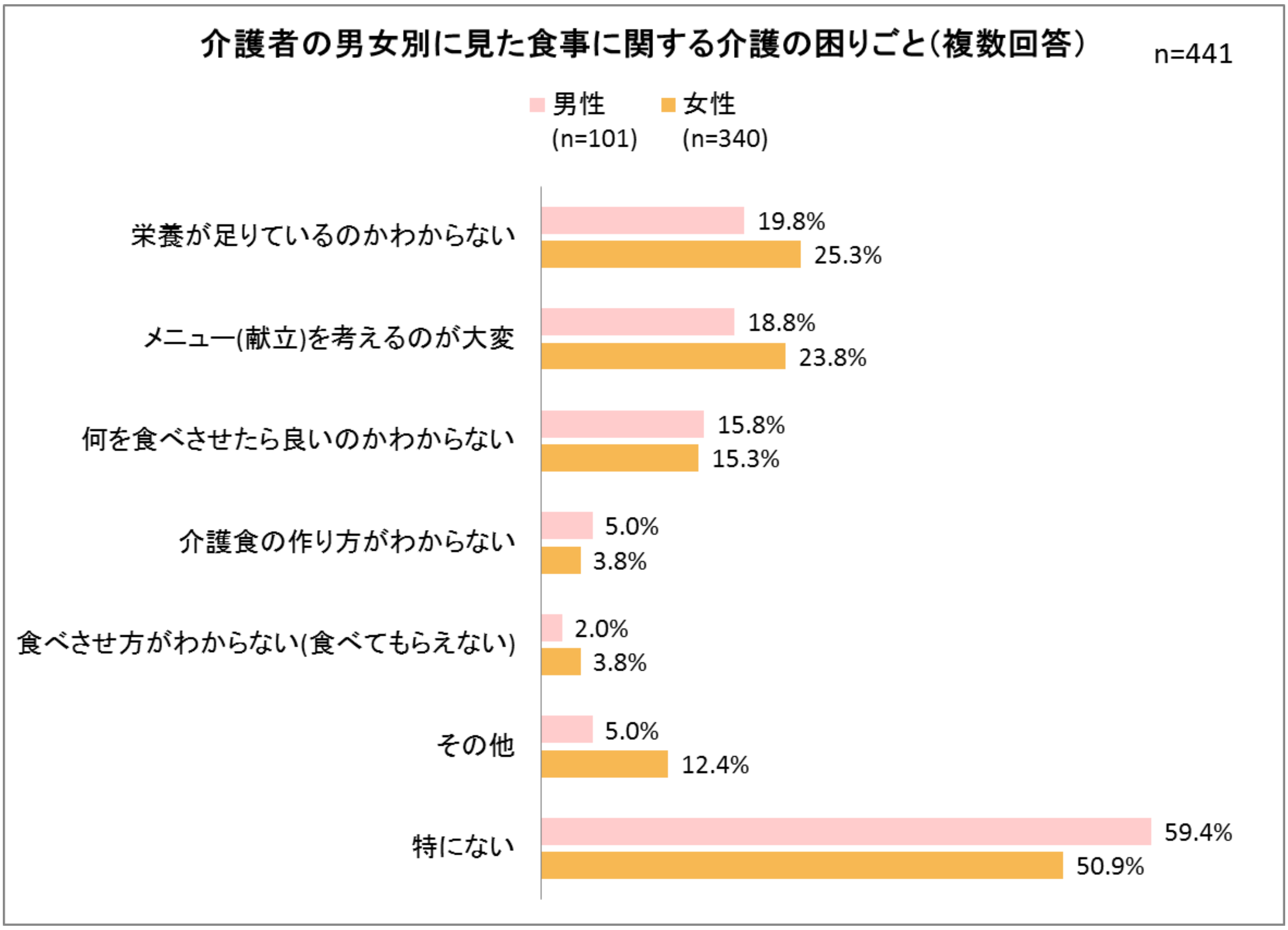
図Ｉ−2-4-4：義歯の使用状況別に見た食事に関する介護の困りごと(複数回答)



（５）介護者の性別による違い

介護者が女性の方が男性に比べて困りごとが多いという結果でした。特に、女性は「栄養が足りているか分からない」「メニュー（献立）を考えることが大変」という回答が多いという結果でした。

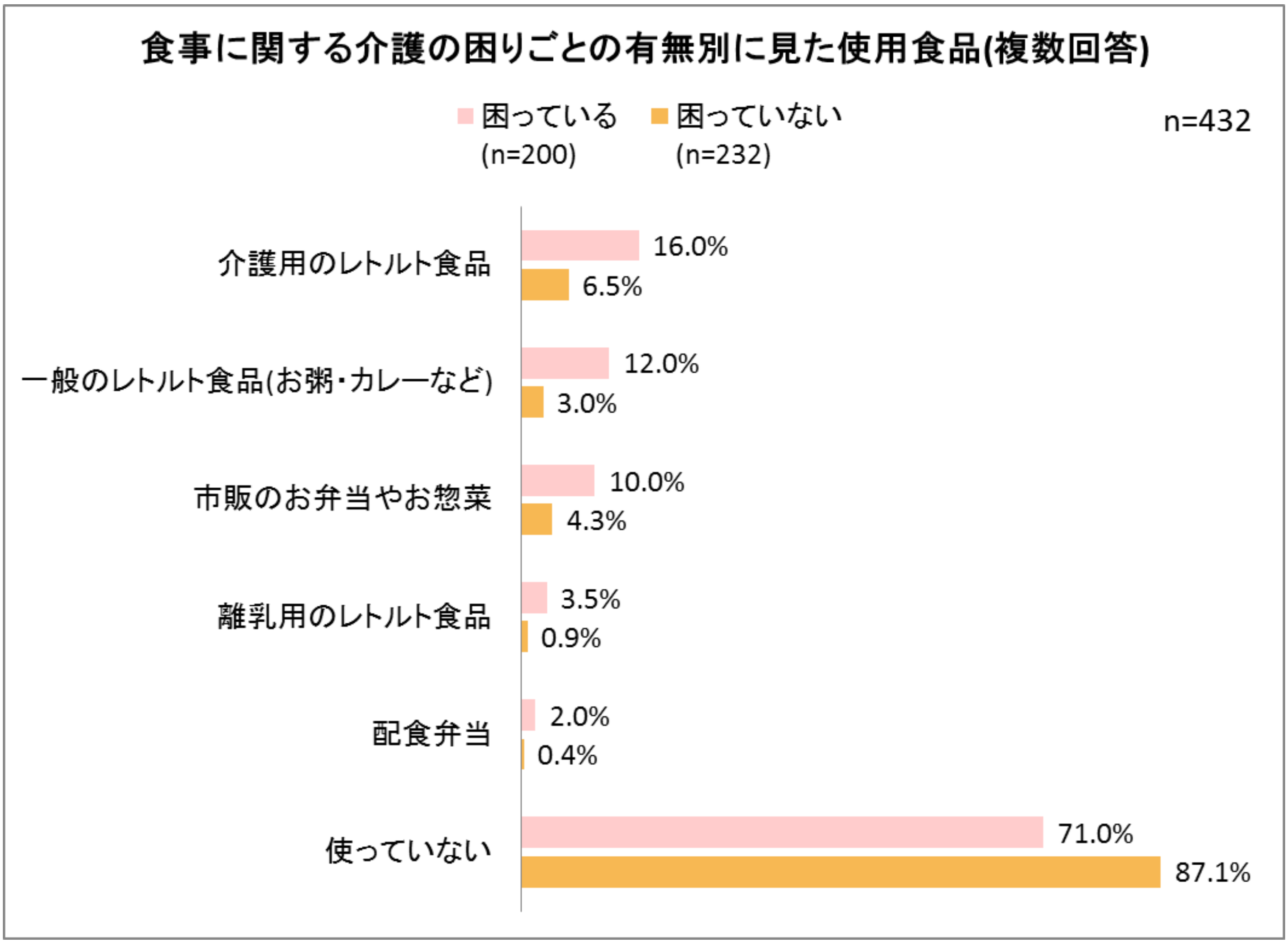
図Ⅰ-2-4-5：介護者の男女別に見た食事に関する介護の困りごと(複数回答)



（６）利用食品による違い

家族と違う食品を「使っている」と回答した世帯の方が、食事に関する介護について「困りごとがある」と回答する割合が高いという結果でした。特に、介護用のレトルト食品の利用割合が高い傾向が見られました。

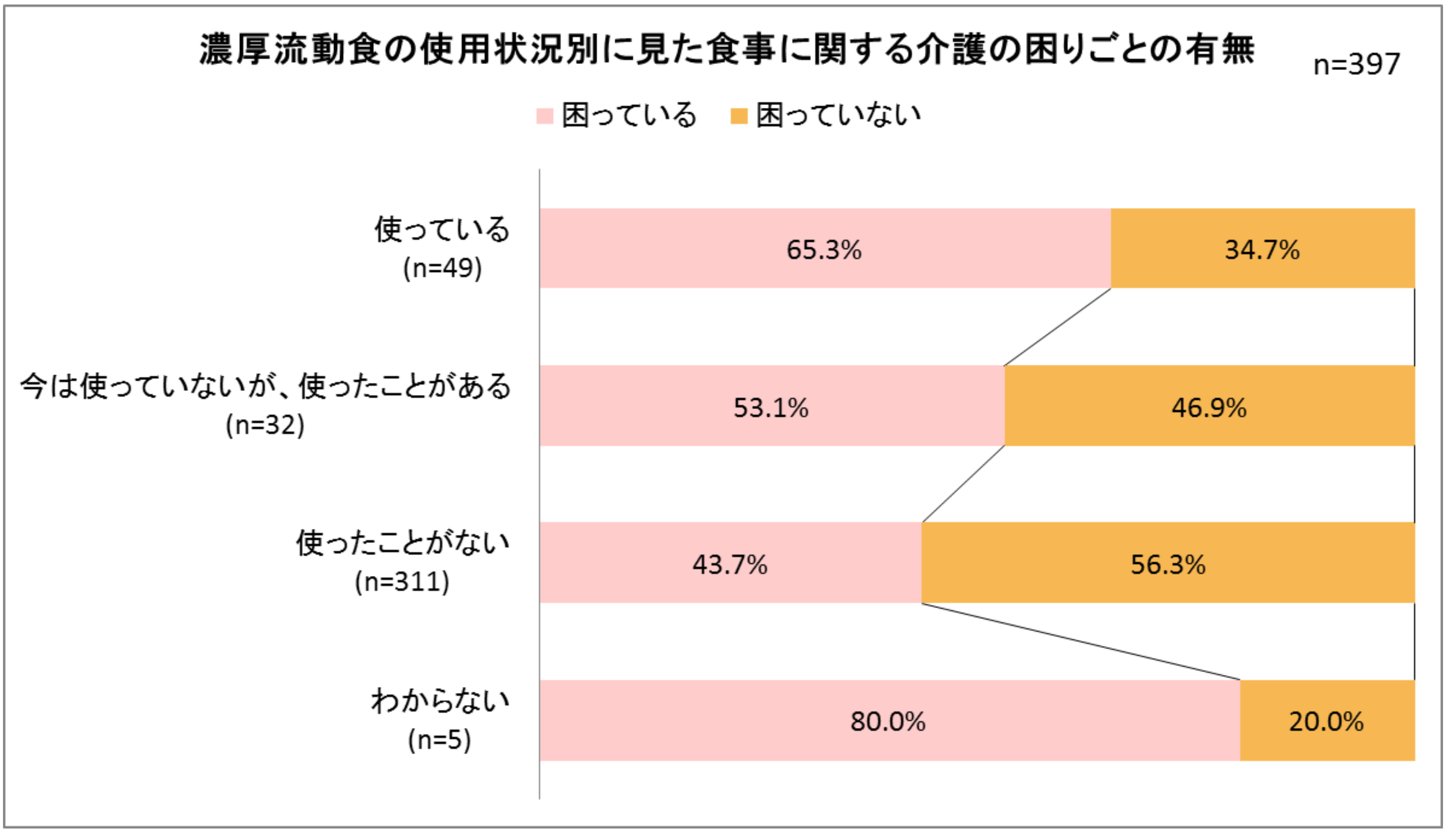
図Ⅰ-2-4-6：食事に関する介護の困りごとの有無別に見た使用食品(複数回答)



（７）濃厚流動食の使用状況による違い

濃厚流動食を使用している世帯は、使用していない世帯と比べて食事に関する介護の困りごとが多い傾向が見られます。

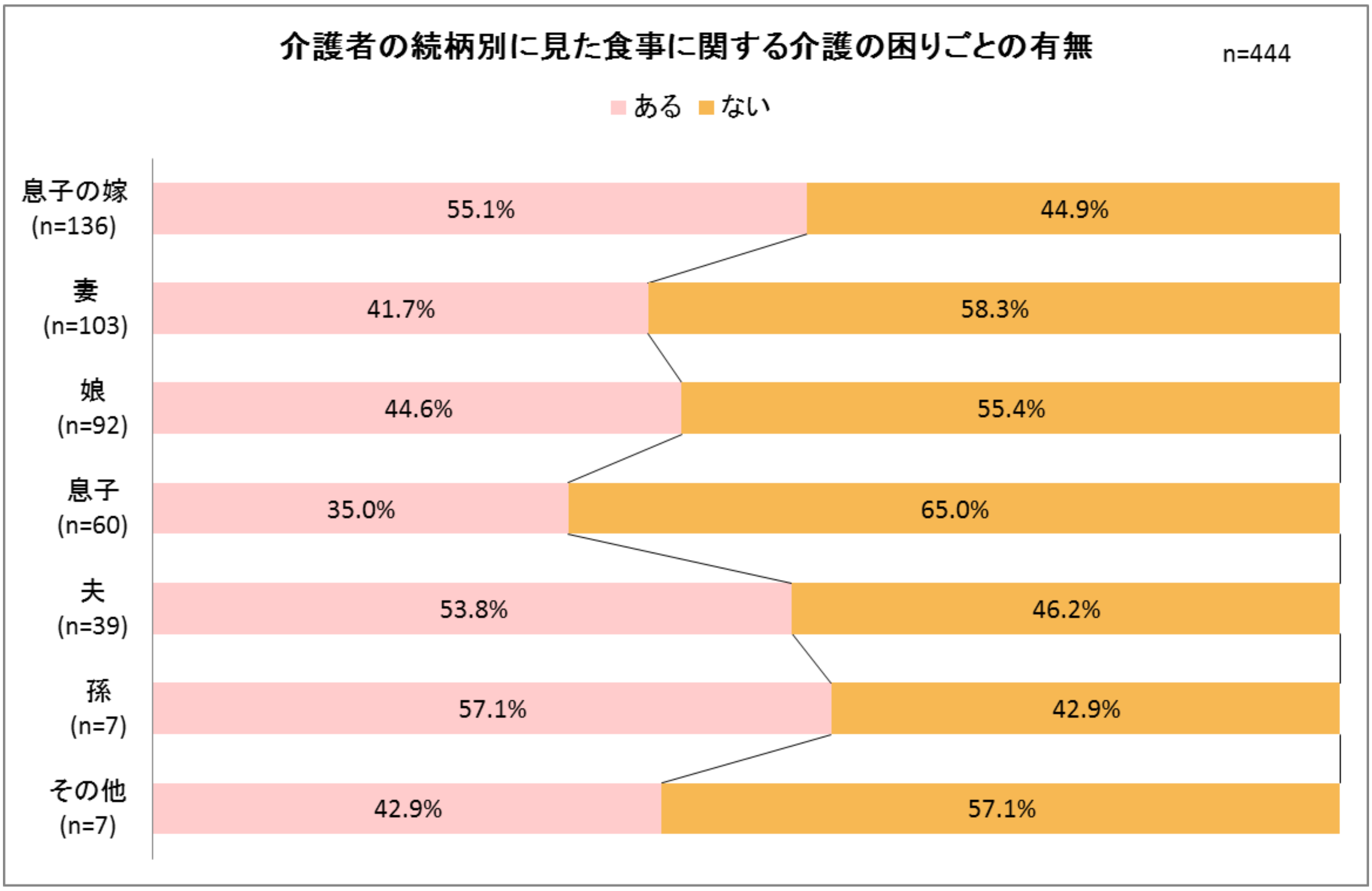
図Ⅰ−2-4-7：濃厚流動食の使用状況別に見た食事に関する介護の困りごとの有無



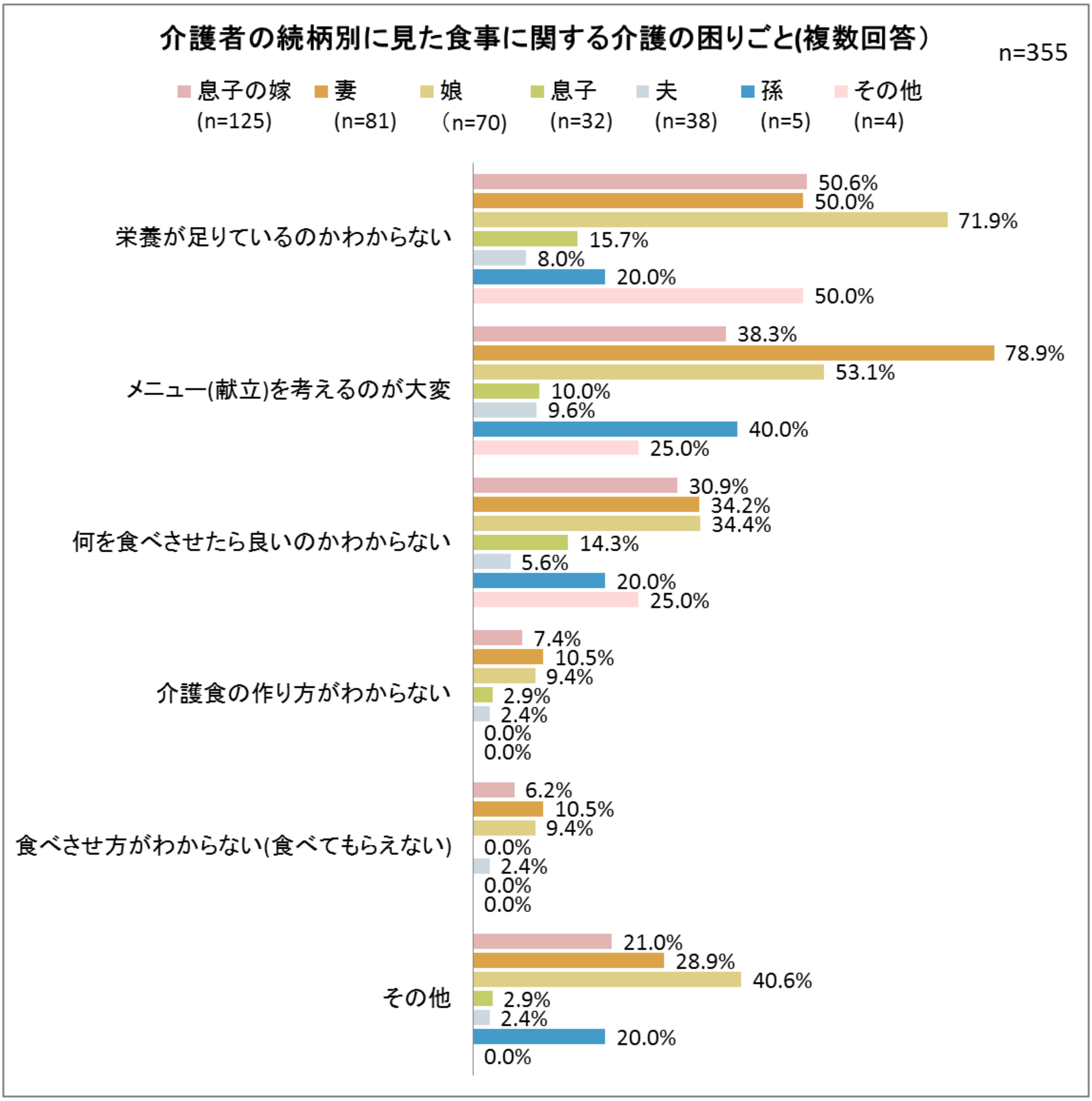
（８）介護者の続柄による違い

介護者の続柄別に見てみると、「夫」と「息子の嫁」が特に困りごとを感じているという結果でした。困りごとの種類で見ると、「夫」や「妻」などの配偶者は「メニューを考えるのが大変」という自分の介護負担を一番の困りごととして感じています。一方で「娘」「息子の嫁」などの子供に当たる世代は「栄養が足りているかわからない」という要介護者の状態の不安を困りごとに感じているという結果でした。

図Ⅰ-2-4-8：介護者の続柄別に見た食事に関する介護の困りごとの有無



図Ⅰ-2-4-9：介護者の続柄別に見た食事に関する介護の困りごと(複数回答)

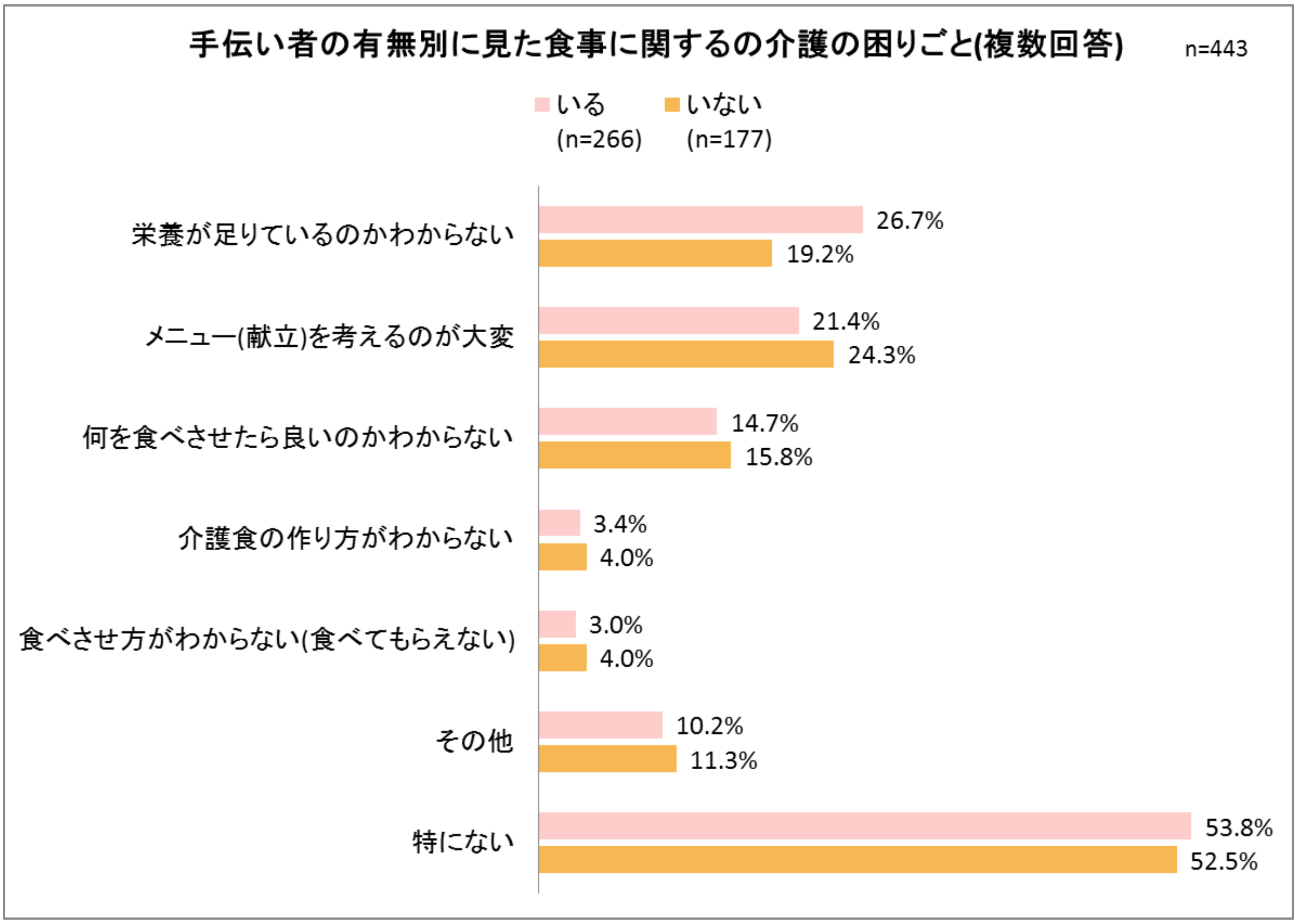


（９）介護を手伝う家族の有無による違い

介護を手伝う家族の有無で、食に関する困りごとに大きな差は見られませんでした。

介護の手伝い者がいる方は「栄養が足りているかわからない」と回答する割合が高く、手伝い者がいないと「メニューを考える」のが大変という介護負担についての困りごとが多い傾向が見られました。

図Ⅰ-2-4-10：手伝い者の有無別に見た食事に関するの介護の困りごと(複数回答)

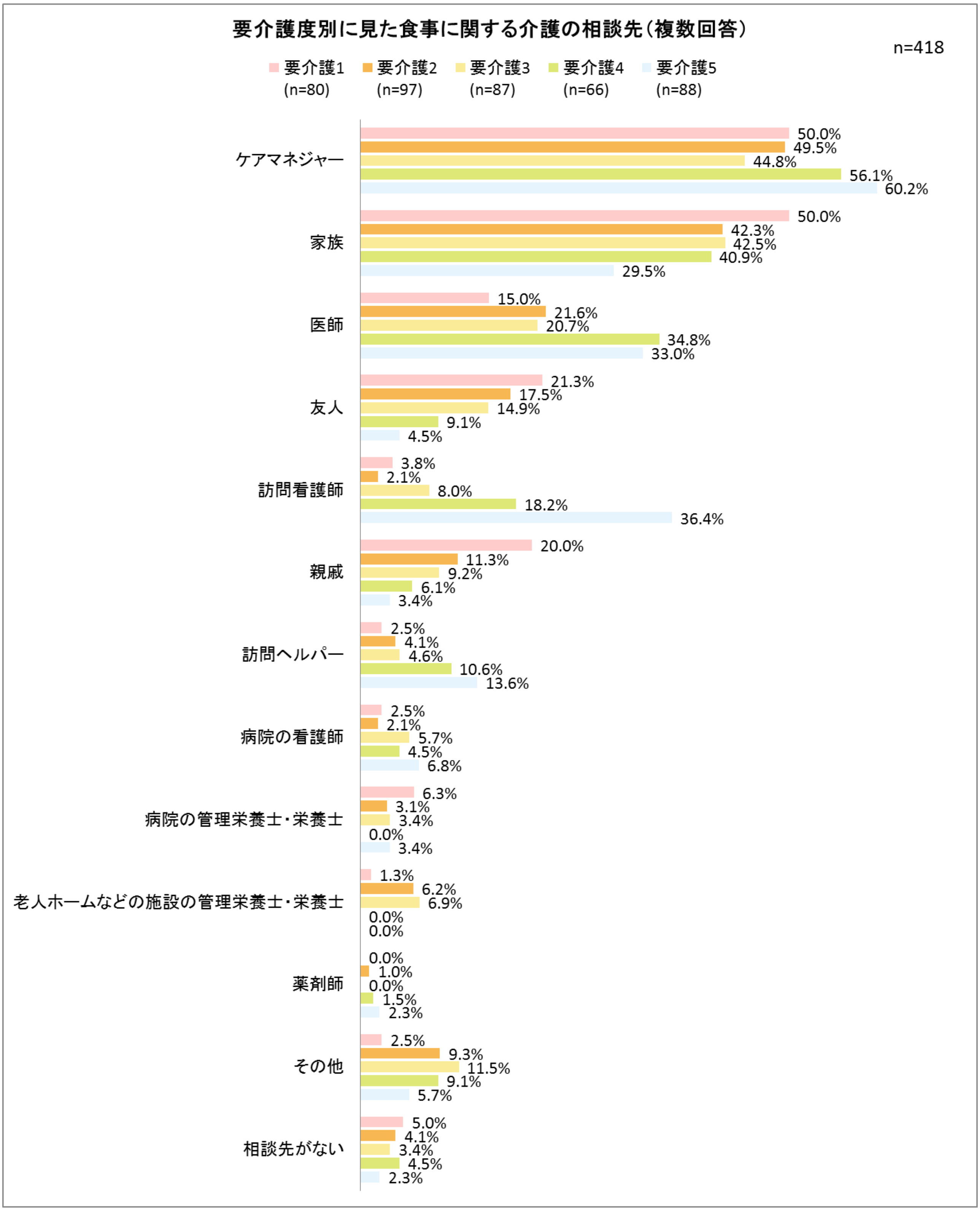


２．食に関する介護の相談先

（１）要介護度による違い

要介護度が低い方が家族以外の相談先が少ない傾向が見られました。要介護５では、特に訪問看護師への相談の割合が他の要介護度と比べて高い傾向が見られました。

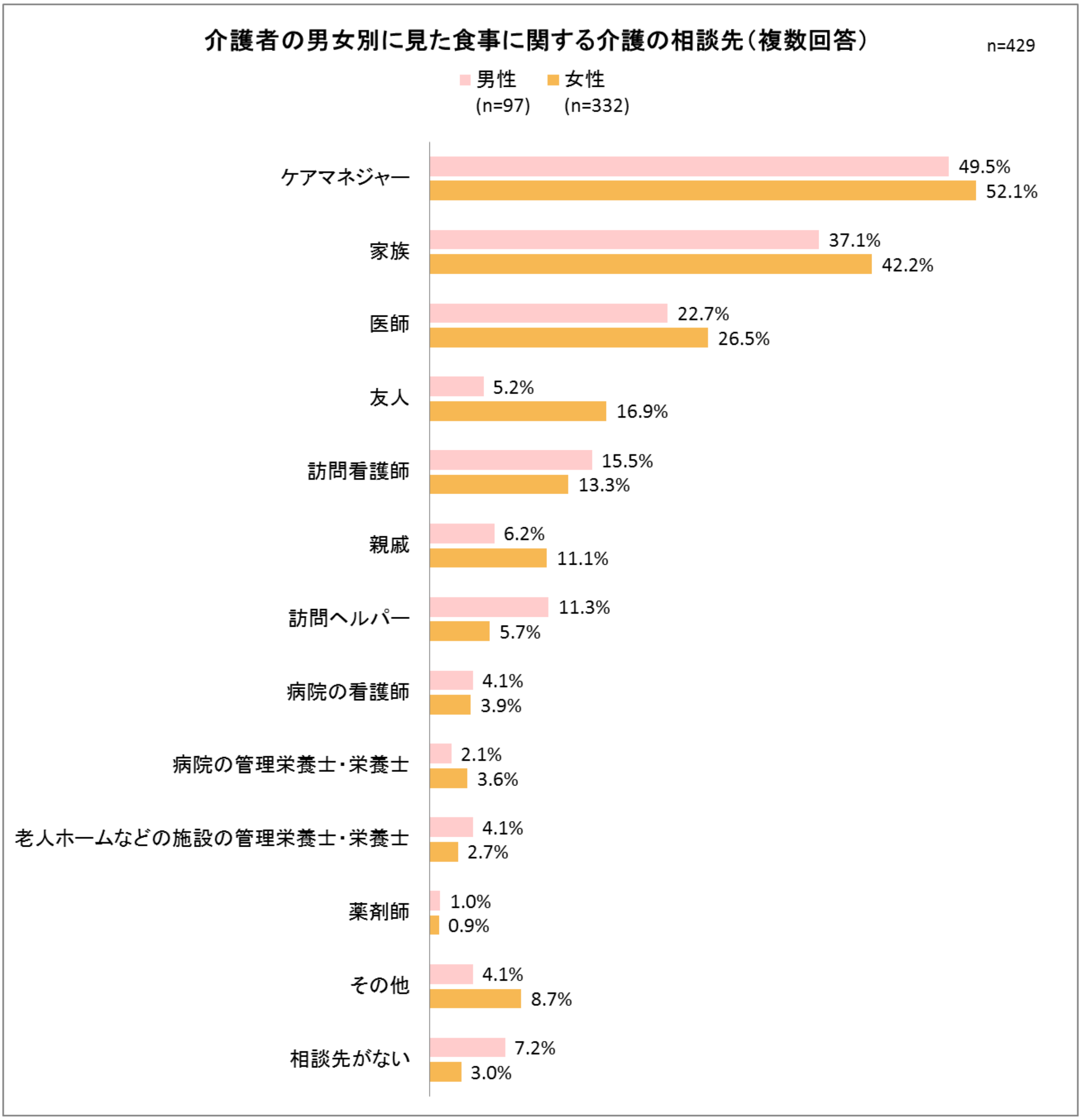
図Ⅰ-2-4-11：要介護度別に見た食事に関する介護の相談先(複数回答)



（２）介護者の性別による違い

男性の介護者は女性に比べて、食に関する介護の相談先が少ない傾向が見られました。

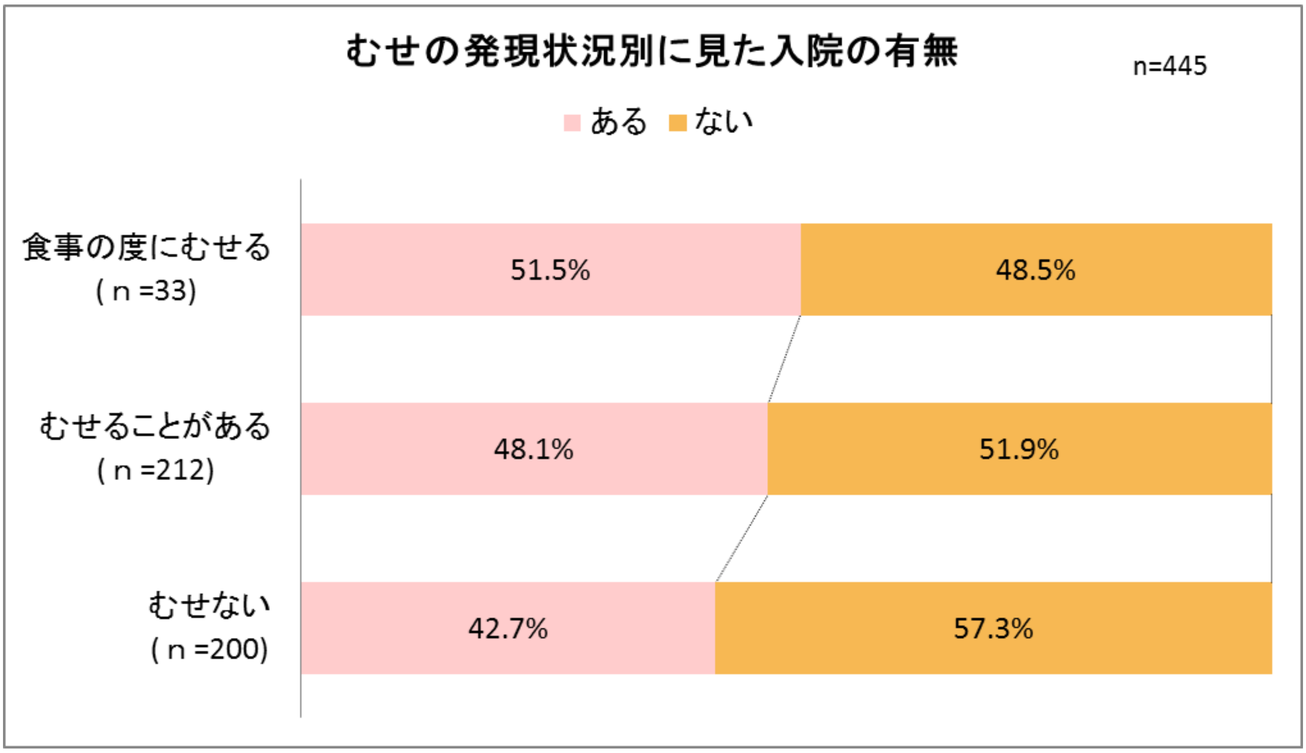
図Ⅰ-2-4-12：介護者の男女別に見た食事に関する介護の相談先(複数回答)



第５節 退院後の要介護者・介護者への支援に関する集計結果

１．入院による影響

（１）要介護者のむせの発現状況による違い

入院経験がある方の方が、食事中のむせの発現頻度が高い傾向が見られました。

図Ｉ-2-5-1：むせの発現状況別に見た入院の有無